

長崎県埋蔵文化財調査年報IV

[平成7年度]

1997

長崎県教育委員会

はじめに

長崎県は古くから大陸との交流の拠点として栄え、江戸時代には海外に開かれた唯一の窓口として、我が国の発展に重要な役割を果たしてきました。こうした条件から、旧石器時代～近世の埋蔵文化財が数多く存在しております。

長崎県教育委員会では、平成4年度から県下で行われた発掘調査のなかで、県が中心となって調査した遺跡の概要を年報として刊行しております。平成7年度も多くの発掘調査が行われ、大きな成果をあげることができました。

これらの発掘調査の多くは急増する種々の開発に伴うもので、各開発部局との協議を重ねたものであり、その結果、計画変更・掘削面積の縮小といった遺跡保護・保存の努力もいたしております。

今後とも、埋蔵文化財の保護・保存への御理解をお願いいたしますとともに、本書がそのための一助になれば幸いです。

最後になりましたが、本書刊行に際して御協力をいただいた関係各位に厚く御礼申し上げます。

平成9年3月31日

長崎県教育委員会教育長 中川 忠

例　　言

1. 本書は、長崎県における埋蔵文化財保護行政の現状と、長崎県教育委員会が平成7年4月1日から平成8年3月31日までに実施した23箇所の発掘調査の概要を収録したものである。
2. 各遺跡の調査概要中の位置図は、国土地理院発行の縮尺25,000分の1の地図を使用し、〔 〕内は図幅名を表す。
3. 平成7年度分より宍岐・原の辻遺跡調査事務所関係の発掘調査については、調査事務所の調査年報に概要を収録することになった。
4. 各遺跡の調査担当者と調査概要の文責については、各々の文末に記した。
5. 本書の編集は県文化課文化財保護主事小松旭が行った。

本　文　目　次

はじめに

I 長崎県の埋蔵文化財の動向	1
1 保護行政の現状	1
3 県内における研究活動について	3
4 調査の動向	3
5 平成4年～平成7年の発掘等件数及び県市町村別職員数	9
II 各遺跡の調査概要	
平成7年度長崎県県内発掘調査箇所市町村別位置図	10
①池ノ浦墳墓 (美津島町) 11	28
②金田城跡 (美津島町) 12	29
③宇久山本遺跡 (宇久町) 14	30
④頭ヶ島白浜遺跡 (有川町) 15	31
⑤茶園遺跡 (岐宿町) 16	32
⑥石田城跡 (福江市) 18	33
⑦中島遺跡 (福江市) 20	34
⑧宮下貝塚 (富江町) 21	35
⑨丸九遺跡 (大村市) 22	36
⑩沖城跡 (諫早市) 24	38
⑪岬の内遺跡 (瑞穂町) 25	39
⑫五方長者屋敷遺跡 (国見町) 26	
III 平成7年度　長崎県埋蔵文化財発掘届・発見届一覧	40

I 長崎県の埋蔵文化財の動向

1 保護行政の現状

平成7年度に提出された発掘届出件数は154件で、それに対する対応は、発掘調査104件・工事立会32件・慎重工事14件・その他4件となっている。調査の原因別の内訳は別表のとおりである。

事業別に見ると、住宅建設・宅地造成が最も多く、農業関連事業と道路建設関係がこれに次いでいる。この順位はこの数年変わらない。

一方、県内における埋蔵文化財関係職員数は、県では本庁13名・壱岐原の辻遺跡調査事務所5名・島原教育事務所駐在1名の計19名（内嘱託3名）であり、市町村では8市16町に32名（内嘱託2名）が配置されている。

毎年僅かずつでも増加の傾向にあるが、まだ79市町村の中での配置率は30%にすぎず、不十分である事は否めない。

未配置町村の調査については県が対応しており、その分県が負担を強いられていることになる。県の単独事業も多く、今後は県が十分に対応出きない状態になることは目に見えている。

専門職員の未設置町村にあってはその配置に努力してもらう他はない。

2 県の事業について

平成7年度に県が行った主な事業は以下のとおりである。

①埋蔵文化財緊急調査

事前に把握できなかった開発等によって、不測の事態があった場合に緊急に対応する事業であるが、現実的には現地踏査とその結果に基づく事業者との協議が主な内容である。

②埋蔵文化財普及啓蒙活動の推進

例年、埋蔵文化財発掘技術者研修を3回実施している。

基礎研修Ⅰは各教育事務所単位で実施し、その対象としては各市町村教育委員会の文化財担当者や当該地区的県や市町村の開発担当部局職員であり、主に文化財保護法の解説や開発と遺跡の取り扱いについて説明と協力を求めている。

専門研修としては、8月21日～23日の3日間にわたり、長崎外国語短期大学講師の木本雅康先生による「長崎県下の古代官道について」という講義と九州帝京短期大学助教授の櫻木晋一先生による「出土銭貨が語る九州地域の歴史」という講義が行われた。受講生

表1 開発事業別発掘等件数

区分	件数
緊急	道路 20
	鉄道 0
	空港 0
	河川改修 4
	ダム建設 0
	学校 2
	住宅・宅地 35
	区画整理 2
	その他施設 11
	ガス・電気・水道 0
並	工場 0
	農道関連 22
	ゴルフ場 0
	土砂採取 1
	その他開発 23
	観光開発 1
	自然消滅 0
	整備 12
	確認試掘 0
	公園 0
合計	学者調査 0
	合計 133

は各市町村教育委員会の文化財担当者、県内教職員、県文化財保護指導委員、県文化課職員など42名であった。基礎研修Ⅱは『報告書の作成方法』について、実地による割り付け編集の方法や印刷工場の見学等を行った。研修参加者は県内市町村の専門職員15名である。

この他、昨年度から県内市町村の文化財担当者の会議を実施している。本年度の会場は大村市で開催し、県内各市町村文化財担当者90名が参加した。

会議内容は平成6年度から九州地区の埋蔵文化財担当職員で検討している『九州地区埋蔵文化財発掘調査基準』の試行案の説明や、指定文化財の取り扱い、国庫補助事業の説明等であった。

③重要遺跡範囲確認調査（カルテ事業）

県では平成3年度から県内周知遺跡の中で特に重要な遺跡の範囲確認調査を実施して、起りうる開発事業との協議のための基礎資料を作成しているが、今年度は縄文時代の福江市中島遺跡と本県の古代遺跡として重要な国見町五万長者遺跡について実施した。

その結果については本書に掲載しているとおりである。

④『原始・古代の長崎県』の編纂事業

本年度から3年計画で『原始・古代の長崎県』が刊行されることになった。県史に相当する企画であり、昭和62年以来の懸案事項であった。この本は3冊からなり、平成7年度は『資料編Ⅰ』として対馬・壱岐・五島列島など離島の遺跡を取りあげた。平成8年度は『資料編Ⅱ』として本土部の遺跡を取りあげる予定であり、平成9年度の通史編で完成させる計画である。

⑤原の辻遺跡整備事業

原の辻遺跡の発掘調査は緊急調査と範囲確認調査に大きく分かれる。

緊急調査は幡ヶ浦川流域総合整備事業に伴うもので、河川改修事業と圃場整備事業が主な内容である。この緊急調査では3,932m²が調査された。その調査としては、旧河川床からナウマン象やシカ、ウマの骨など約40点が出土している。時期的には旧石器時代の可能性が高く、弥生時代の遺物の他に古生物にも注意を向ける必要が出てきた。

また、弥生中期中頃の短甲と高杯状容器も河川床から出土し注目をあびた。

範囲確認調査は国庫補助を受けて実施しているもので、芦辺町と石田町にまたがる丘陵部を中心として2,053m²が調査された。平成6年度に検出された建物跡が集中する丘陵とその周辺部で、検出された遺構としては、箱式石棺や石蓋土壙が6基、甕棺7基、土壙墓・木棺墓11基、そして溝状遺構が4状確認されている。

出土遺物としては、弥生土器・石製管玉・ガラス玉・鉄劍・鉄鎌などのほか、旧石器時代の台形石器が発見されている。

このほか、原の辻遺跡の国史跡指定へ向けての地元説明会が平成8年3月に行われた。

なお、平成7年4月28日から一般公開された「壱岐・原の辻遺跡展示館」の入場者が11か月で10万人を越えた。

3 県内における研究活動について

長崎県考古学会が春と秋に開催された。

春の大会は例年長崎市で開催されているが、平成7年度春の大会のテーマは長崎県の縄文晩期の諸問題について6月10・11日の2日間にわたって行われた。発表は、初日、愛媛大学の田崎博之氏が「縄文から弥生への墓制—長崎県下の支石墓の周辺—」について行い、引き続き長崎県文化課の安楽勉氏によって「長崎県の縄文晩期の支石墓と石器」という発表が行われた。2日目にはシンポジウム形式の討議が行われた。司会者は県文化課の高野が行い、田崎氏・安楽氏の他に県文化課宮崎貴夫氏・人村市教育委員会の稻富裕和氏・小値賀町教育委員会塚原博氏らによって活発な討議が行われた。

秋の研究会は、春の大会に引き続き、縄文晩期の主に文石墓についての討議にしばった。

発表は熊本大学甲元眞之氏による「大陸文化と支石墓」、佐賀県三田川町草野誠司氏による「佐賀県の支石墓」、そして県文化課の高野による「長崎県の支石墓」であった。2日目はパネルディスカッションが中心で、愛媛大学の田崎博之氏が司会進行を行った。 (県教育庁文化課 高野晋司)

4 調査の動向

【旧石器時代】

五島列島福江島北部の岐宿町岐宿郷の茶園遺跡で、旧石器時代末期あるいは縄文時代草創期初期に位置付けられる細石器文化が確認されている。畑地帯総合改良事業に伴う範囲確認調査で発見されたもので、良好な包含層を伴うことが確認された。福江島の発掘調査によって細石器文化の石器群を確認したのは初めてのことである。その最大の特徴は石槍を伴うことで、黒曜石製と安山岩製の各1点が出土している。細石刃は1点の黒曜石製を除いて、青灰色を呈する佐世保市淀姫系の黒曜石を素材としている点も、茶園遺跡の細石器文化を特徴付けるものとして注目されている。

【縄文時代】

五島列島では、縄文時代の幾つかの遺跡の調査が注目された。前期の茶園遺跡からは、早期押型文土器とそれに伴う石器も検出されている。

上五島有川町白浜遺跡では、町営アワビ養殖場建設に伴う発掘調査で、海岸部から前期後半から後期初頭にかけての遺物が層位的に発見されている。特に前期前半の縄B式土器に伴って韓国系隆起文時が発見されたことは、長崎県内では対馬の越高校遺跡や越高校尾崎遺跡の例が知られていたが、五島列島では初例である。また、同遺跡からは曾畠式系土器・尾田式土器・船元式系土器・春日式土器・並木式土器・阿高式系土器・坂の下式土器等が出土しており、朝鮮半島や南九州などとの広範な交流を物語るものとして注目される。福江市の中島遺跡で重要遺跡範囲確認調査が行われ、後期前半の鐘崎式・北久根山式期の包含層で3基のドングリピットが確認され、また貝塚から貝類・シカ・イノシシ・クジラ・カメ等の獣骨のほか、ヤス等の骨角器や石器類とともに、多量の北久根山式土器が出土した。

富江町宮下貝塚では道路改良工事に伴う発掘調査が行われた。前期曾畠式土器が少量検出されたが、主体は中期から後期にかけてであり、大量の土器と共に、剥片鐵・石鋸・打製及び磨製石斧・尖頭状

石器などの石器やヤス・鋸齒鐵・貝輪などの骨角器類が発見されている。

縄文時代晚期から弥生時代初頭にかけての幾つかの遺跡が注目される。大村市の黒丸遺跡は昭和51年に発見された低湿地の一帯に広がる遺跡で、その後様々な開発行為によって調査が継続されている。遺跡前面には長崎県の中央部に広がる大村湾がある。琵琶湖の約半分の面積を持つ大村湾はその最奥部で僅か数kmの諫早地峡を挟んで有明海と接している。特に注目されるのは、長崎県文化課が行った都市計画道路の工事に先立つ緊急発掘調査において縄文時代晚期中頃の黒川期に比定されるドングリの貯蔵穴が62基発見されたことである。周辺にはさらに広がることが予想され、全国的にも最大規模のものとして注目される。貯蔵穴は標高2mの低湿地に作られ、大きさは直径が1m前後、深さが0.7~1mの断面がピーカー状のもので、素掘りのまま枝で蓋をしたものと、木棒で笄み枝で蓋をしたものがある。周辺には後続する時期の住居跡も1基発見されている。また同じ遺跡内では、人村市教育委員会によって、遺跡の範囲確認調査が進められている。前年度には、晚期後半の山の寺期の遺物と共に舟状木製品が検出され話題となつたが、周辺部の調査を行つた結果、必ずしも山の寺期のものと断定することは出来ないような状況が確認され、さらに、今後の詳細な調査が期待されている。しかし、今年度の調査では、新たに擦り切り技法による石庖丁が発見されるなど、これまでに発見されている大量の打製土器と合わせて、長崎県内における縄文晚期稻作農耕の始源期解明の上で非常に注目される。

〔弥生時代〕

前述の黒丸遺跡では、縄文時代晚期から弥生時代前期・中期・後期の上器群が、層位的に確認されている。西北九州地域においては、弥生時代初頭の上器群、特に福岡市周辺でいうところの前期の板付1式期に該当する上器群の位置づけがなされていない。この地域では、晚期以来の突堤文系土器の系譜が前期後半まで引き継がれることから、この点が北部九州とは異なつており、今後詳細な調査と遺物の型式学的研究により、位置付けがなされることが期待される。

五島列島小値賀町では調査された笛吹遺跡が注目される。笛吹遺跡は標高104mの臼状火山、番岳の裾野の舌状台地に立地する遺跡で周辺部に湿地帯があつて水田が営まれている。縄文時代後・晚期、弥生時代、古墳時代、中世から現代まで継続する遺跡である。これまで、中期初頭の「板石開い壺棺」が発見されているが、今回の調査では、前期の甕棺墓・石棺墓が計22基発見され、板付1式に相当する小壺が副葬品として検出されている。小値賀町で板付1式相当土器の発見は初めてであり、始源期における五島列島と北部九州地域との交流を知る重要な発見である。

佐岐の原の辻遺跡では、これまでの調査で「魏志倭人伝」に記された「一支国」の中心集落であるとの評価を得るに至っている。その範囲確認調査が継続されているが、「大川」地区と「原」地区の調査が行われた。「大川」地区では、中期後半から後期におよぶ小児甕棺7基、箱式石棺5基、石蓋土壙墓1基、上壙および土壤墓（木棺墓）13基が発見されたほか、溝状造構5条などが検出されている。副葬品にはガラス小玉・管玉・鉄剣・鉄鏃先などが見られる。成人の墓は、甕棺ではなく、箱式石棺・土壤墓であり、甕棺主体の北部九州地域とは異なる様相を示している。「原」地区では、台地

頂上とその西側で、中期に掘られた2条の溝状造構と9基の住居跡が確認された。

[古墳時代]

奄岐の芦辺町では、安国寺前八遺跡における圃場整備事業に伴う範囲確認調査で、古墳時代初頭の溝1条と沼状の落ち込みが確認され、多量の土器が出土している。また、石器と呼ばれる帶に取り付ける青銅製の飾金具が出土したことから、遺跡周辺に官衙的性格のもののが存在が考えられている。また、同町の原の辻遺跡の「原」地区で、古墳時代初頭の堅穴式住居跡が確認されており、弥生時代から古墳時代にかけての様子を知るうえで、今後の調査が期待される。

島原半島有明町の一野遺跡における範囲確認調査で、横穴式石室が確認されている。

[古代]

島原半島の国見町五万長者屋敷遺跡において、重要遺跡の範囲確認調査が行われた。調査では版築状の造構が確認され、今後瓦葺き建物との関係解明に期待が寄せられている。また、祭祀造構と考えられるものが2か所確認された。軒丸瓦・平瓦・丸瓦のほか、須恵器が出土しており、いずれも8世紀代に比定されるものである。

[中世]

佐世保市の武辺城跡において大きな成果があがっている。その存在は確認されていたものの、調査によって伝説の宗家松浦氏の居城であった可能性が高まっている。調査では、発掘調査と綿密な分布調査により城域と主軸輪の様子が明らかになりつつある。城域は東西約800m・南北約400mで、主軸輪を中心として東・西・南に出曲輪が確認された。主軸輪は長軸が約80m・単軸約30mで上塁が三方にあり、さらに外側には犬走りや平場・堀り切り・空堀りが配置されている。また、主山輪内では桁行が8.4mの3間4本柱の掘立柱の大型建物、さらに梁行2間・桁間3間の小型建物が検出された。出土遺物では明朝の輸入陶磁器で、青磁、黒・褐釉陶器、青花磁器、朝鮮半島の李朝期の青磁。粉沙青磁及び陶器茶碗類のほか、国産では須恵器、備前陶器が検出されている。遺物の年代から15世紀半ばから後半に位置づけられている。これらの成果から、武辺城はその規模、主曲輪に複数の大型の建物が配され、多くの輸入陶磁器や日常雑器の出土から、日常的な生活を営む居館としての機能を持っていたことが判明した。このことにより、当時平戸松浦氏と敵対関係にあった宗家松浦氏との居館としての可能性が高いとされるのである。今後の調査の成果が大いに期待される。

大村市では、キリスト教の時代にイエズス会に寄進され、キリスト教の教会に転用されたといわれる宝生寺跡の発掘調査が行われた。これは、宅地造成工事に関して確認調査が行われたもので、寺院の一部と思われる複数の建物跡が確認された。宝生寺は南北朝期に奈良西大寺の末寺としてその存在が知られているが、日本最初のキリスト教徒として知られる大村純忠の居城であった三城城の前にあり、その時代にイエズス会に寄進された。天正2年にキリストによる社寺の破壊事件が起こった際に仏教寺院としての機能を失い、寺の施設は宣教師の住居・語学校等に転用され、既存の建物とは別に、大規模な教会が設けられたといわれている。大村領内におけるキリスト教布教活動の中心施設となり、純忠が亡くなるとその遺骸はキリスト教寺院としての宝生寺に埋葬されたといわれ、大村領

では最大級の寺院であった。純忠の子、喜前がキリスト教を捨てたことにより廃絶されたとされている。キリスト教の時代にはたして西洋の教会建築を模倣して新たな建物が設けられたかについては興味を沸かせるところであった。というのは仏教寺院が本堂を中心として横に広がるのに対し、教会建築は縦に長い建築様式になるからである。当時の教会は、仏教寺院の転用が多く、桃山・江戸初期に描かれた「南蛮屏風」や「都の南蛮寺」でも、建物は日本の建築様式によるものである。調査では、教会風の縦長の建造物は発見されず、複数の建物が、恐らく回廊で結ばれたような構造を思わせるようなものであった。もっとも、寺院の主体となる部分は、既にアパートが建設されており、将来の調査を待たねばならない。なお、中世から近世にかけての遺物が出土している多くはない。キリスト教に関する遺物の発見はない。

諫早市では、戦国時代に活躍した西郷氏の支城で、天正15（1587）年以降は伊佐早へ入城した龍造寺家晴の隠居場となった沖城において農道拡幅工事に伴い範囲確認調査が行われた。これまでにも調査が行われているが、今回の調査では良好な包含層の確認とともに石組造構が検出され、その周辺から年代的にもほぼ一致する瓦片をはじめ唐津系上器など中世末～近世初頭の遺物が出土したこと、遺物のうえからも沖城跡との関連を強く裏付ける成果が得られている。これまでの調査と合わせて、かなり広範囲に城跡が広がることが予想されており、今後の調査に期待される。

島原半島の南有馬町の国指定史跡原城跡では、保存整備事業の一環で発掘調査が続けられ本丸跡の右垣張り出し部が検出されている。また、北有馬町では同じく国指定史跡の日野江城跡で環境整備計画に基づく確認調査が継続的に行われている。日野江城は、標高78mの城山を中心として構築された肥前西部最大の戦国大名であった有馬氏の居城で、鎌倉・南北朝期に築城されている。11代義貞から13代晴信まではキリスト教大名としても知られ、城下にはセミナリオが造られた。有馬氏の後、江戸初期には一時松倉氏の居城ともされたが、元和4（1618）年原城とともに破却されている。今回の調査では、城郭東側の大手門付近の平坦部を中心に調査区が設定され、建物遺構や製鉄遺構の一帯、土壙や炭が多く含まれる遺物包含層が確認されている。出土遺物には中国輸入陶磁器の青磁・白磁・染付のほか、るつぼ・瓦・土師器・瓦質土器などがある。

[近世]

長崎市では江戸後期の窯跡である瀬古窯の調査が行われた。諫早家『日新記』によれば、八戸重という人物の願い出により、現川焼再興の名目で文化2（1805）年に開窯されたものである。全長68m焼成室は1室あたり幅7.5m、奥行5mを平均とし、15室が連なった階段状連房式登り窯である。

比較的良好な状態で残存しており、窯の左方に物原が確認されている。製品は、白磁染付の碗・鉢・皿などの日用雑器が中心で、下層からは船軸のものも若干出土している。なお、焼成室砂床の深掘により、さらに下層の窯室の存在が確認されている。1室あたり幅6～7m、奥行4m内外で、新しい窯によりかなり削平を受けている。この調査は次年度に予定されている。また、30m程離れたところに、炭と多量の未焼成品（素焼き）を伴った単室窯が検出されている。奥行3m、幅4m程度の半円形の平面プランで検出されたが、破壊を受けており、全体のプラン・構造などについては不明とされ

ている。素焼き用の窯か、あるいは試作的に築かれた窯ではないかと考えられている。また、長崎市では唐人屋敷跡の発掘調査が行われている。平成4年度には市の開発事業に先立ち試掘調査が行われ、屋敷の外周の堀状造構が確認されているが、さらにその外側に新たに堀状造構が確認された。記録から、内側の堀は1730年代に埋められたものと考えられている。

波佐見町では、高尾窯跡の発掘調査が行われた。かなり破壊が進んでいるものの、複数の焼成室と物原が確認されている。白磁碗・青磁碗のほか、染付碗・小杯・鉢・皿・蓋物の磁器・陶質の碗・火入れなどが出土した。遺物からの推定年代は1670~1680年代に位置づけられ、廃窯期は18世紀中葉頃と考えられている。

[文献一覧]

【論文その他】

各時代にわたるもの

1. 正林 譲 『ながさき古代紀行 Vol. I 対馬』タウンニュース社
2. 長崎県教育委員会 『原始・古代の長崎県』資料編Ⅰ
3. 長崎県考古学会 『長崎県考古学会No.4』

中世

4. 松本慎二 『原城跡の石垣』 第4回織豊期城郭研究会研究集会
5. 本田秀樹 『対馬・金田城』『古代文化』第47巻11号

【報告書】

各時代にわたるもの

6. 高田美由紀編 『万才町遺跡-朝日生命ビル建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-』長崎市埋蔵文化財調査協議会
7. 宮崎貴大編 『万才町遺跡-長崎県立新別館建替えに伴う発掘調査報告書』長崎県文化財調査報告書 第123集
8. 古門雅高編 『県内重要遺跡範囲確認調査報告』長崎県文化財調査報告書 第130集
9. 町田利幸編 『黒丸遺跡-都心計画道路杭出井・松原線改良工事に伴う発掘調査報告書-』長崎県文化財調査報告書 第124集
10. 高原 愛編 『伊木力遺跡I』長崎県文化財調査報告書 第126集
11. 長崎県教育委員会 『長崎県埋蔵文化財調査年報Ⅲ(平成6年度)』
12. 甲斐田 彰編 『中木場遺跡II-水無川4号遊砂地造成工事に伴う緊急発掘調査報告書-』長崎県文化財調査報告書 第128集
13. 甲斐田 彰編 『中木場遺跡III-水無川1号ダム建設工事に伴う緊急発掘調査報告書-』長崎県文化財調査報告書 第129集

14. 町田利幸・馬場聖美編 『里田原遺跡－第27・30・32・34次調査概報』田平町文化財調査報告書
第7集 長崎県田平町教育委員会

繩文時代

15. 古門雅高編 『頭ヶ島白浜遺跡』有川町文化財調査報告書 第1集

占墳時代

16. 甲斐田彰・塩塚浩一編 『池の浦墳墓』美津島町文化財調査報告書 第7集

中世

17. 安楽 勉編 『曲古墓群-五島列島若松島口島所在の中世墓群』若松町文化財調査報告書

第1集 長崎県若松町教育委員会

18. 松本慎二編 『原城跡』南有馬町文化財調査報告書 第2集 長崎県南有馬町教育委員会

19. 久村貞男編 『武辺城跡発掘調査報告書(第1次)』佐世保市埋蔵文化財発掘調査報告書
佐世保市教育委員会

20. 高野晋司編 『鷹島海底遺跡Ⅲ－長崎県北松浦郡鷹島町神崎港改修工事に伴う緊急発掘調査－』
鷹島町文化財調査報告書 第2集 長崎県鷹島町教育委員会

近世

21. 中野雄二編 『I 高尾窯跡 II 伝辺田郷廻場整備に伴う確認調査』波佐見町文化財調査報告書
第7集 波佐見町教育委員会

(大村市教育委員会 稲富裕和)

表2 平成4年度～平成7年度開発事業別発掘等件数

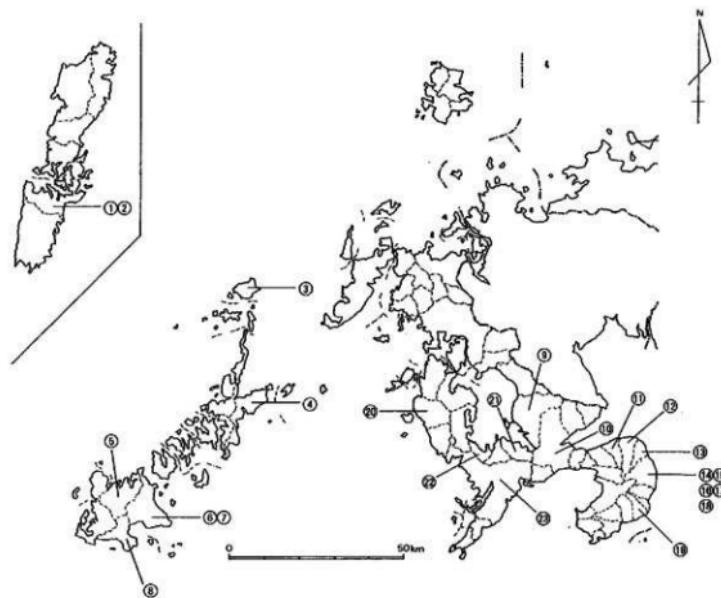
	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年
緊急	道 路	24	20	32
	鉄 道	0	0	0
	空 港	0	0	0
	河 川 改 修	9	3	4
	ダ ム 建 設	0	0	0
	学 校	2	2	2
	住 宅・宅 地	13	13	29
	区 画 整 理	2	8	5
	そ の 他 建 物	14	12	17
	ガス・電気・水道	6	10	8
調査	工 場	3	2	0
	農 道 関 連	31	16	28
	ゴ ル フ 場	0	3	0
	土 砂 採 取	3	1	0
	そ の 他 開 発	19	9	12
	観 光 開 発	2	0	1
	自 然 消 滅	2	2	0
	整 備	2	3	4
	確 認 試 堀	3	6	11
	公 国	14	7	5
学 術 調 査		9	11	10
合 計		161	134	168
				133

表3 埋蔵文化財担当の年度別・県市町村別職員数

区分	平成4年		平成5年		平成6年		平成7年	
	長崎県	市町村	長崎県	市町村	長崎県	市町村	長崎県	市町村
職員数	12(2)	15(2)	15(2)	16(2)	18(2)	24(2)	16(3)	32(2)

()は嘱託等を示す外数である

II 各遺跡の調査概要



- | | | | |
|-----------|--------|---------|--------|
| ①池ノ浦墳墓 | (美津島町) | ⑬一野遺跡 | (有明町) |
| ②金田城跡 | (美津島町) | ⑭中木場遺跡 | (島原市) |
| ③宇久山本遺跡 | (宇久町) | ⑮中木場遺跡 | (島原市) |
| ④頬ヶ島白浜遺跡 | (有川町) | ⑯神田原遺跡 | (島原市) |
| ⑤茶園遺跡 | (駿宿町) | ⑰沖田遺跡 | (島原市) |
| ⑥石田城跡 | (福江市) | ⑱中南遺跡 | (島原市) |
| ⑦中島遺跡 | (福江市) | ⑲西鬼塚右棺群 | (有家町) |
| ⑧宮下貝塚 | (富江町) | ⑳広平遺跡 | (大瀬戸町) |
| ⑨鬼丸遺跡 | (大村市) | ㉑伊木力遺跡 | (多良見町) |
| ⑩冲城跡 | (諫早市) | ㉒木場崎A遺跡 | (時津町) |
| ㉓陣の内遺跡 | (瑞穂町) | ㉔桜町遺跡 | (長崎市) |
| ㉕五万長者屋敷遺跡 | (国見町) | ○笛吹遺跡 | (小值賀町) |

いのうら
① 池ノ浦墳墓

所在地 下県郡美津島町大字久須保

調査主体 美津島町教育委員会

調査原因 美津島漁港修築

調査面積 60m²

調査期間 平成7年8月28日～9月22日

処置 本調査

報告書 平成8年刊行

遺跡番号 新規発見

立地

美津島町は、対馬の中央部に位置し、浅茅湾の東から南岸を町域として東岸は対馬海峡西岸は朝鮮海峡に面する。地勢は、南部は白岳(503m)を主峰とする400m級の山並みがめぐるのに対し、北部は対馬で最も低い浅茅湾周辺の丘陵地から無数の岬が伸び、複雑な入江が形成されている。

本遺跡は、美津島町の東部に位置し、上・下島を分ける万闊瀬戸の北東部に所在する。この付近には三浦湾側に発達したリアス式海岸によって、いくつもの浦が形成されている。そのひとつに、池ノ浦がある。この池ノ浦の北西から南東へ50mほど突き出した瘤状の突端部に立地する。

調査

遺跡発見当初は、草木に覆われていたため伐採から始まり遺物の表面採集を行った。伐採後、墳墓と思われる遺構が見つかったが、かなりの破壊を受けていた。

まとめ

今回の調査では明確な遺構は確認できなかったが、遺物から遺跡の上限は6世紀初頭、下限は8世紀末と考えられる。また、立地が池ノ浦の岬の先端部であること、陶質土器を出土すること、遺物に年代の幅があることなど対馬の墳墓の特徴を備えているといえる。同湾南の岬の突端部には、すでに池ノ浦鼻・池ノ浦鼻1号墳・2号墳が確認されている。これらの遺跡は浦を単位とする一族のもので本遺跡とは深く関わるものと考えられ、報告が行われれば検討が必要と思われる。

[調査担当：中斐田・塩塚 文責：塩塚]



池ノ浦墳墓位置図 [難知] (1/25,000)

② 金田城跡

所在地 下県郡美津島町黒瀬および箕形地内
調査原因 遺跡整備
調査期間 平成7年9月25日～11月2日
報告書 平成11年刊行予定

調査主体 美津島町教育委員会
調査面積 150m²
位置 調査後埋戻し
遺跡番号 10-12

立地

対馬の中央部にはリアス式海岸の発達した内海、浅茅湾がある。金田城跡はその西方の外浅茅の南辺にあり、黒瀬湾と箕形湾にはさまれた約二km四方の半島全体が特別史跡として指定されている。

調査対象地である鞍部は標高70m前後で、もうひとつの調査対象地であるビングシ山は鞍部の南側に位置する標高83mほどの低丘陵である。

調査

鞍部の調査

【C-2・3区】

C-2・3区では北西から南東方向にのびる上塁基底部の石垣が確認された。遺物は石垣の西側から、土師器・須恵器・石斧などが出土している。

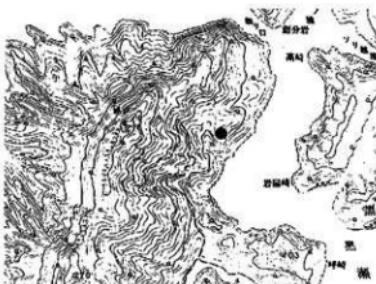
【D-1区】

D-1区では地表下1mほどで砂や粘土の層が現れはじめ、1.3から1.6mまで掘り下げると石壁遺構が検出された。土層からは2枚の旧地表面が確認された。これらの遺構は下位の旧地表上に構築されており、上位の旧地表上にある上塁より先行する遺構であることが明らかになった。遺構の時期については伴出遺物が少なく、特定するには至っていない。

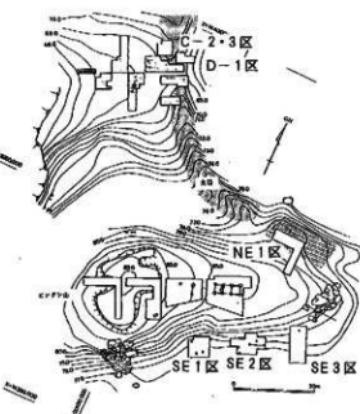
ビングシ山の調査

【NE1区】

遺構は全く確認されなかった。土壁は山側を掘り下げて土盛りをしていた。ただし、C-2・3区で見られたような基底部の石積みは、ここでは確認できなかった。遺物は須恵器の提瓶把手が出土し



金田城跡調査区位置図〔阿速〕(1/25,000)



調査地点地形測量図 (S=1/800)

た外は、表探資料しか得られなかった。

【SE 2区】

ビングシ山南斜面に設定したトレンチである。ピットを2個検出した。東側に拡張したところ、新たに2個が見つかり、3個のピットが77~78mの等高線に沿って160~180cm間隔で並んでいた状況がうかがえた。トレンチの南側では1.5mの範囲に焼土と炭の拡がりが見られ、火を炊いた形跡がうかがえた。これらの周囲には径40cmほどのピット2個も掘り込まれてあった。遺物は7世紀後半代の須恵器が少量出土したにすぎない。



D-1区石壙状遺構

【SE 1区】

SE 2区の西側にも斜面の裾にかけて5m四方のトレンチを設定し、土層の観察を試みた。岩盤にはピット3個が掘り込まれていた。北東隅には炭が2mの範囲に一面に拡がり、10cmほどの厚さで堆積していた。炭だけをこの場所に捨てたものと推測される。

遺物は上師器や7世紀後半代の須恵器が多数出土したほか、新羅系陶質土器も出土している。滑石を加工した温石とみられる製品も数個まとめて出土した。

【SE 3区】

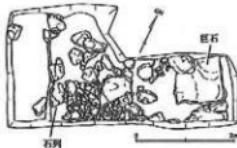
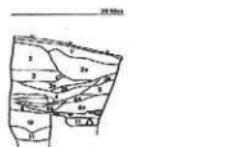
ビングシ山の南東斜面に設定した4m×9mのトレンチである。ピットは径20cmのものが北側の岩盤に1個だけ掘り込まれていた。

まとめ

本年度の調査をまとめると次のようになる。

鞍部での補完調査ではC-2・3区で土壙基底部の石垣が確認された。石垣は概ね3段の石積みを行っていたものと推定され、裏込め石などを丹念に施すような状況は見られなかった。D-1区では下位の旧地表上に構築された石壙遺構があった。出土レベルから考えて、土壙に先行する遺構であると思われる。

今回の調査成果としては、鞍部の土壙と石壙遺構の先後関係が明確になったことがあげられよう。築城当初は石壙状の遺構があり、その後土壙と門礎石の遺構が構築されたものと推定される。時期差については遺物が伴出してないため明確ではない。築城時の遺構を明確にするためにも、二ノ城戸方向の谷に面した部分についてはもう少し詳細な調査が必要である。



D-1区石壙状遺構実測図 (S=1/100)

〔調査担当：本田・高原〕〔文責：古門〕

③ 宇久山本遺跡

所在 地 北松浦郡宇久町平郷字山本1906番地1
調査原因 保険センター建設
調査期間 平成7年12月11日～12月21日
報告 書 平成9年刊行予定

調査主体 宇久町教育委員会
調査面積 100m²
処置 調査後工事
遺跡番号 21-30

立地

本遺跡は、宇久町最高峰の城ヶ岳（258.6m）の南東約2kmに位置し、海岸線からの距離は約500m、標高は約20mを測る。南東に緩やかに下がる低位溶岩台地の側面にあたり、周辺は宅地化が進んでいる。建設予定地は畑地として利用されていたが、黒曜石剥片が表面採集できることで知られていた。なお、当地より約50m北には、宇久家盛と争い滅ぼされた久保氏の碑である久保様遺跡がある。

調査

調査は、範囲確認調査の結果包含層が確認された建設予定区の北西部全域を対象に実施した。調査区の土層は第一層が耕作土、第二層は茶褐色混疊土層で上部からの流れ込みの堆積上で、縄文時代～中世の遺物を含む搅乱層である。第三層は混疊黒褐色粘質土層で中世の遺物の包含層である。第四層が黄褐色粘質土層で柱穴等が掘り込まれた地山である。遺物としては第二層からは陶磁器の小破片と縄文土器片1点と黒曜石剥片がパンコンテナ1箱分が出土し、第三層より白磁碗・白磁皿・龍泉窯系青磁碗・土師皿・陶器・滑石製石鍋などが出土した。また、遺構としては柱穴と思われるピットを検出がされた。

まとめ

調査の結果、柱穴等が検出され、良質の陶磁器片等が出上したことから、かなりの有力者の屋敷跡であったことが予想される。また、第二層から多量の黒曜石剥片等が出土したことから、当地より上部に縄文時代の遺跡の中心があったと思われる。



宇久山本遺跡位置図【宇久島】(1/25,000)



遺物出土状況

【調査担当：甲斐田・松尾】（文責：甲斐田）

④ かしらがじましらはま 頭ヶ島白浜遺跡

所在 地 南松浦郡有川町友住郷字白浜

調査原因 アワビ養殖場建設

調査期間 平成7年5月15日～6月16日

報告 書 平成8年刊行

立地

頭ヶ島白浜遺跡は五島列島中通島の北東部に位置する頭ヶ島に立地する。遺跡は、島の北側にあり、ロクロ瀬戸を挟みロクロ島と向かい合う場所に位置する。

調査

層序は、表土(第1・2層)灰白色砂層(第3層)疊層(第4層)黄色砂層(第5層)褐色粘砂層(第6層)褐色粘質土層(第7層)である。第5層は縄文前期海進後に堆積した風成砂で、これを旧期砂丘とすると第3層は古代から現代にかけて堆積した風成砂で、新期砂丘といえる。

第3層を中心に近世末～近代の石組み遺構、階段状遺構、集石遺構を検出した。また第3層を中心に一部第5・6・7層を切り込んで45体の埋葬人骨を確認した。副葬六道鏡より18世紀中頃から19世紀前半ころの近世墓と推定された。

第5層上位から縄文中期の並木式土器・阿高式土器・船元式土器・春日式土器などが出土し、第5層下位からは曾畠式土器・尾田式土器が出土している。第6層と第7層からは縄文前期の森式土器などが出土した。

特筆すべきは森式土器と共に伴った韓國隆起文土器である。韓國系彩色土器とよばれるもので、これまでに、釜山凡方貝塚・慶尚南道新岩里遺跡・煙台島貝塚・上老大島貝塚などより出土している。石器は石鋸・石鋸・石鐵・石匙・搔削器類・彫器・石核・磨製石斧・打製石斧・敲石などが出土した。石器組成の主体が漁労具や解体処理具に偏っていることなどから、海棲哺乳類(主にイルカ・クジラ類)の捕獲・解体の場であろうと推定した。

まとめ

頭ヶ島白浜遺跡は本県ではめずらしい近世人骨の資料や、全国的にも貴重な韓國新石器時代の土器などが出土した。これらの遺構・遺物によって頭ヶ島の歴史の一部が明らかとなった。

調査主体 有川町教育委員会

調査面積 400m²

位置 調査後工事着工

遺跡番号 26-1



頭ヶ島白浜遺跡位置図【頭ヶ島】(1/25,000)



37～39号人骨

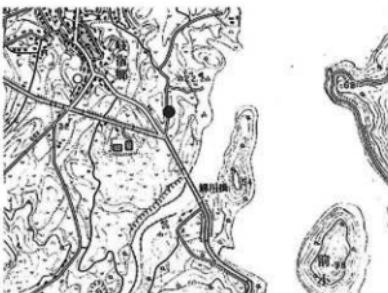
⑤ 茶園遺跡

所在地 南松浦郡岐宿町岐宿郷字茶園・字白餅出
調査原因 土地改良事業
調査期間 平成7年9月25日～10月6日
報告書 刊行予定なし

調査主体 岐宿町教育委員会
調査面積 76m²
処置 調査後埋め戻し
遺跡番号 39-3

立地

茶園遺跡は、福江島北部の岐宿町岐宿郷に所在する。遺跡は北に向かって突出する標高10～20mの低平な溶岩台地の付け根に位置する。東側は岐宿港および唐船ノ浦が大きく湾入するリアス式海岸で、鰐川・一ノ河川などの河川が流入している。遺跡の周辺は農地として利用されているが、近年は離農者も多く荒廃した土地も多い。



茶園遺跡位置図 [五島福江] (1/25,000)

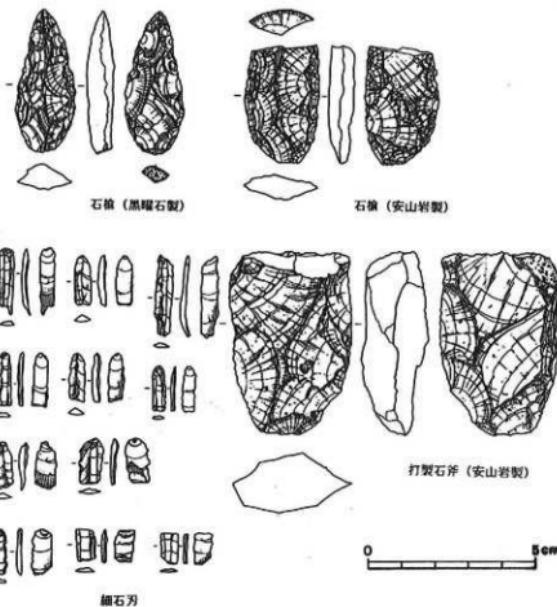
調査

今回の調査で出土した主な遺物は、旧石器時代末期および縄文時代草創期初頭の細石刃・石槍をもつ石器群および縄文時代早期後半の押型文土器を主体とするもの2つがある。細石器文化石器群は第3試掘坑から集中して出土している。その内訳は石槍2点・細石核1点・細石刃50点・打製石斧1点・搔器2点と多くの剥片・碎片である。細石器に伴う石槍の類例は少なく貴重な発見である。第1試掘坑から出土した押型文土器は、楕円・山形・連珠文などの文様があり、早期後半のヤトコロ式に相当する。これに伴う石器は石皿・磨石・敲石などで、定型的な剥片石器は出土していない。

まとめ

今回の調査での最大の成果は、細石器とそれに伴う石槍の共伴が確認されたことである。石槍は2点出土したが、そのうちの1点は安山岩製で佐賀県多久市の茶園原遺跡などで出土するものに酷似する。細石核は舟底形である。このタイプの細石核は、周辺の遺跡では上器を伴う段階に位置づけられており茶園遺跡でも土器の出上が期待されるところである。

[調査担当：川道・塙塙] (文責：川道)



出土遺物（第3試掘坑出土石器）



遺跡遠景

⑥ 石田城跡

所在地 福江市福江町7番地

調査原因 五島高校建て替え

調査期間 平成7年5月15日～6月7日

報告書 平成9年刊行

調査主体 長崎県教育委員会

調査面積 251m²

処置 調査後工事

遺跡番号 39-35

立地

本遺跡は、五島福江の中心石田（福江市福江町）の地に幕末期に構築された五島氏の居城で、現在は、周りは埋め立て地であるが、元々は海で囲まれた海城であった。試掘調査の結果、ごく新しい地質時代の玄武岩質火山活動によって形成された玄武岩の基盤を確認したことから、元々島状あるいは岬状に陸地化した場所に城を築いたものと思われる。



石田城跡位置図 [五島福江] (1/25,000)

調査

二の丸部分に17箇所、本丸部分に1箇所、合計18箇所の試掘場を設定した。その結果、『旧五嶋領の図』の絵図面に記載された二の丸部分における「ノ切門跡」や、「荷上門跡」と、それらに連結する石垣の基礎部分を確認した。本丸に設定した試掘場では、溝跡を確認した。

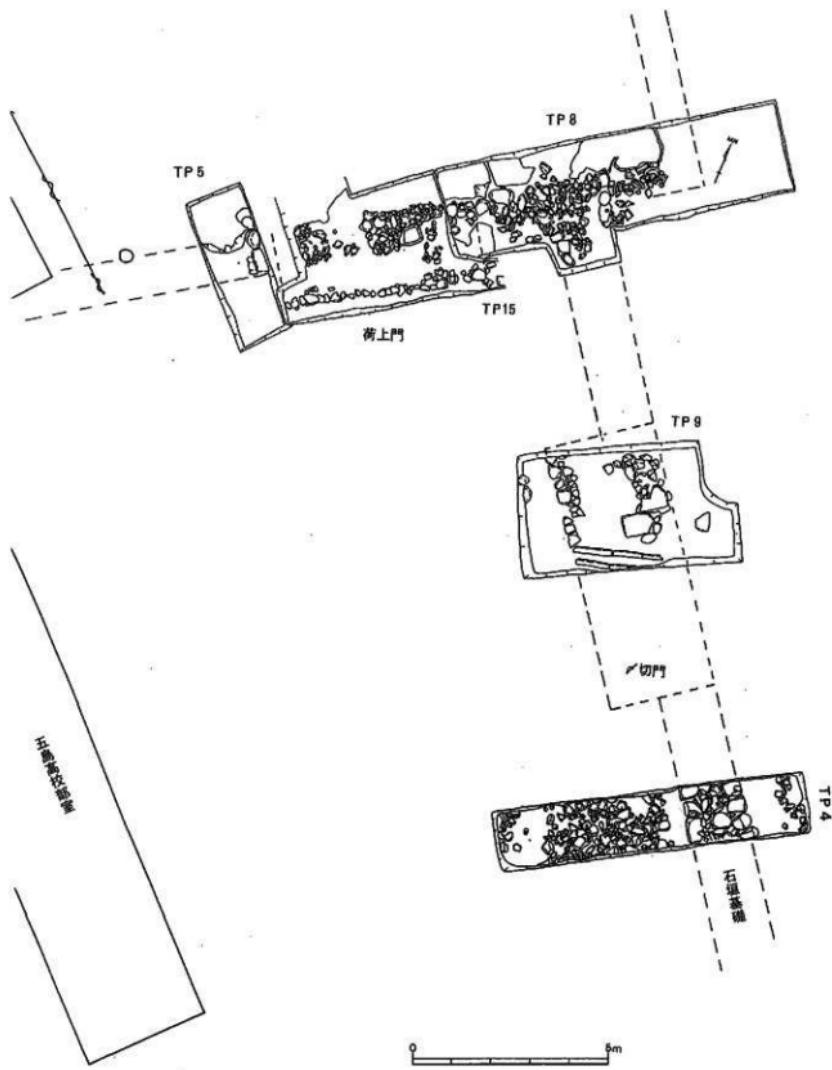
なお、『旧五嶋領の図』には、石倉等の建物跡が記載されているが、それに該当する場所に設定した試掘場では、建物跡等の礎石は確認できなかった。

遺物は、ほとんどの試掘場から「五島焼」等の近世陶磁器、瓦片、摺り鉢他が出土している。

まとめ

五島氏の悲願が叶い石田城が完成したのは、実に明治維新の5年前、文久3年のことであった。江戸幕府における最後の築城になる。今回五島高校の建て替えに伴い発掘調査を実施することになったが、本丸に設定した試掘坑では溝跡を、二の丸部分では「ノ切門跡」や「荷上門跡」とそれらに連結する石垣の基礎部分を確認した。現状は五島高校の校舎やグラウンドとなっているために石田城の遺構の損壊は激しいが、今回の試掘調査で『旧五嶋領の図』に描かれた遺構の根石の部分を確認できた。ほぼ絵図面通りの遺構が確認できたことが今回の調査成果であろう。

【調査担当:村川・塩塚】(文責:村川)



⑦ 中島遺跡（カルテ）^{なかしま}

所在地 福江市浜町大字大坪

調査原因 重要遺跡範囲確認調査

調査期間 平成7年6月26日～7月27日

報告書 平成9年刊行予定

調査主体 長崎県教育委員会

調査面積 100m²

位置 調査後埋め戻し

遺跡番号 42-29

立地

遺跡は、福江市の南端、富江湾に面する標高2～10mの砂丘と鬼岳溶岩流の末端に位置する。遺跡の前面に広がる大浜海岸は、500m程の長さの砂丘である。往時には現海岸線より100mあまり陸地化していたが浸食により現海岸が形成されている。

調査

昭和60年浜地区水田嵩上げ事業に伴う発掘調査（報告書刊行）によって、縄文時代後期のドングリピットが12基検出された。昭和62年には長崎県重要遺跡に選定された。そして今回の25ヵ所の試掘坑（TP）の調査によって遺跡の範囲等の確認がなされた。

まとめ

ドングリピットを3基確認した。その内の1基を発掘した。直径95cmの平面形が円形で、断面は袋状を呈する。充填されていた覆土は上部から礫群、小砂利混じりの砂層、細かい粒子の砂層となっている。出土遺物は少量のシイ・ドングリ、最下層よりアビ貝出土した。造成は溶岩直上に堆積する粘土層を切り込む形でなされ、豊富な湧き水を利用したものと考えられる。鐘崎式・北久根山式土器の包含層から切り込まれており、時期的に縄文時代後期前半であろう。また、今回発見された貝塚は、層厚が40cmを越える砂層からなり、膨大な貝の他に、シカ・イノシシ・クジラ・カメ・などの獸骨、ヤスなどの骨角器、縄文時代後期後半の三万田式土器などが出土している。調査区内の丘陵部では縄文時代前期から中期の土器である曾畠式、阿高式系、後期の土器である北久根山式土器が出土しているが良好な包含層は認められなかった。

今回新たに発見された貝塚、ドングリピットなどの発見から縄文後期の生活の一端を推測できる。また、当遺跡の前面に比定されている人浜遺跡とも大きく関わるものと思われる。



中島遺跡位置図【富江】(1/25,000)

〔調査担当：川道・塙塚〕〔文責：塙塚〕

みやした
⑧ 宮下貝塚

所在地 南松浦郡富江町宮ノ下

調査原因 道路改良工事

調査期間 平成8年1月15日～1月31日

報告書 平成9年刊行予定

調査主体 富江町教育委員会

調査面積 75m²

位置 本調査

遺跡番号 42-8

立地

宮下貝塚は、噴石丘である只狩山（標高84m）を給源とする標高20m前後の起伏に乏しい低平な富江溶岩台地の北端部に位置する。溶岩台地と富江神社の位置する松尾郷との間に小さな谷底平野が形成されている。海岸線には疊混じりの浜堤が形成され、その背後の谷底平野はラグーン状の低湿地となっている。この浜堤は遺跡の北東部で確認されており、主要地方道福江・玉之浦線がそのうえを走る。



宮下遺跡位置図【富江】(1/25,000)

調査

遺跡の発見は昭和39年、貝層から土器片・石器とともにイノシシ形土偶などを採集したことを契機とする。翌40年には長崎大学医学部解剖学第2教室による試掘調査が実施された。同年夏、県教育委員会・富江町教育委員会・長崎大学・別府大学共同主催による本調査が実施された。その後、平成4年には「重要遺跡範囲確認調査」事業で遺跡の広がり・性格の把握が行われた。今回の調査は道路改良工事に伴うもので限定された調査となった。調査区内では、すでに昭和30年代に水道管工事、ブロック塀の基礎工事、昭和40年の発掘区などにより、本米の原位置を保つ包含層はわずかである。

上層は、I層からIV層に分かれ、遺物はII層の貝層から獸骨・魚骨・石器・土器・貝輪が出土し、III層から中期の土器、IV層から中期の土器、少量の前期の土器が出土している。

まとめ

土器は、標高の低い海側に近い地点で中期の阿高式および阿高式系が集中し、南の貝塚主体部では北久根山式を主体として鐘崎式系、西平式系が出土する。同地点からは僅かではあるが曾畠式も出土する。攢乱層からは少量の弥生時代のものも出土する。石器は、石鏃、剥片鏃、石鋸、縦長剥片などの剥片石器と打製石斧、磨製石斧などの疊石器が出土している。土器出土量に比べ少ない傾向にある。骨角器・貝輪は、ヤス、鋸歯鏃、20点以上の貝輪が出土しているが大部分は攢乱層からの出土である。遺構としては過去の調査で打製石斧の「デボ」が確認されている。今回は、小石を敷き詰めた浅い皿状のピットに口徑の大きな南福寺式土器の大破片を丁寧に重ね合わせ、最後に底部をおいた土器埋納遺構というべきものが確認されている。

【調査担当：川道・塩塚】(文責：塩塚)

⑨ 黒丸遺跡

所在地 大村市黒丸町

調査原因 道路改良工事

調査期間 平成7年11月1日～8年3月15日

報告書 平成9年刊行予定

調査主体 長崎県教育委員会

調査面積 1,792m²

処置 調査後工事

遺跡番号 77-94

立地

本遺跡は、大村平野の北側を流れる郡川下流域西岸の扇状地の標高2～7mの肥沃な水田地帯にあり、遺跡の面積は約100万m²である。

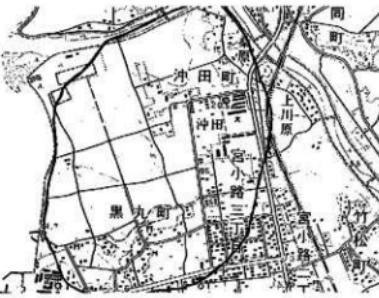
周辺には黄金山古墳や小路口鬼の穴古墳などがあり、南隣には弥生時代の集落遺跡で、甕棺墓や鉄戈などが出土した富の原遺跡がある。

調査

本遺跡の調査は平成5年から3ヶ年計画で行われ、平成5年度に一次調査として2,766m²、平成6年度に二次調査として1,767m²を調査した。三次調査となる平成7年度は、IV区(1,440m²)とV区(352m²)について調査が実施された。IV区は長さ90m、幅16mの調査範囲を南北10m、東西16mに区切り前年度のIV-1・2区に引き続き調査区の名称をIV-3区～II区とし、V区は、前年度のV-1区から北側約150mの地点に設定し、V-2区とした。遺構はIV区に南北3m、東西4mの楕円形の住居跡が見られ、出土遺物から縄文時代晚期後半のものと思われる。また、ドングリ貯蔵穴が62基発見された。貯蔵穴の大きさは直径1m前後、深さが0.7～1m。形態は断面がフラスコ状で素掘のまま枝で蓋をしたものと、木枠で開み枝で蓋をしたもの2種類があった。貯蔵穴の1つからは埴の木製容器も出土している。遺物は住居跡からは、縄文時代晚期後半の土器161点、石器6点。ドングリ貯蔵穴内及び周辺から、縄文時代晚期中頃の浅鉢・壺形土器・深鉢・打製石斧・磨製石斧・石鏃等が出土した。

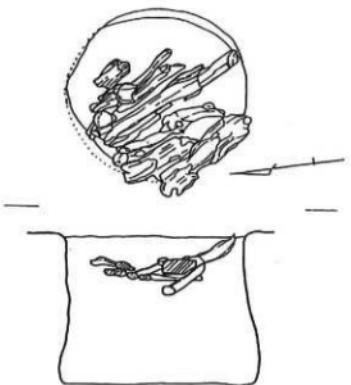
まとめ

ドングリ貯蔵穴は県下においてこれまで6遺跡で発見されているが、今回の調査で発見された62という数は最も多く、規模はこの時期のものとして全国的にも最大規模である。また、食料確保の実態を知るうえで貴重な発見と思われる。



黒丸遺跡位置図【武留山】(1/25,000)

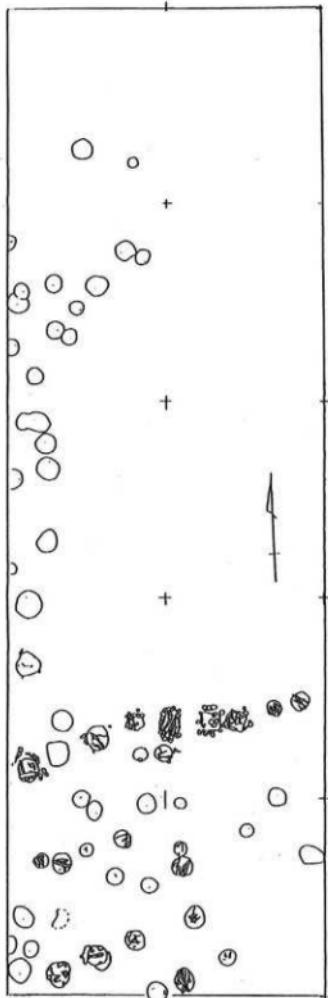
【調査担当：町田・高原】(文責：小松)



ドングリ貯蔵穴実測図



ドングリ貯蔵穴



ドングリ貯蔵穴検出状況

⑩ 沖城跡

所在地 謙早市仲沖町127-1他

調査原因 農道拡幅工事

調査期間 平成7年11月13日～8年3月15日

報告書 未刊行

調査主体 長崎県教育委員会

調査面積 2,000m²

処置 調査後工事

遺跡番号 84-86

立地

本遺跡は、諫早市街地をL字状に貫いている本明川と、市街地の東部を北流する半造川が合流する場所に形成された沖積平野に立地する。以前は起伏のある地形で畠地も点在していたようであるが、諫早大水害後に実施された耕地整理により、現在は水田地帯となっている。付近に、城島と呼ばれる地名が残ることから、かつては西郷氏の支城で、西郷信尚が領地を召し上げられた『北肥戦誌』後、天正15(1587)年に伊佐早を与えた龍造寺家晴の隠居所となつた沖城は当地にあったと推定される。



沖城跡位置図【諫早】(1/25,000)

調査

調査は、農道に沿って北側に幅5m、総延長400mの長大なトレンチを設定し、その中を10m間隔で区切り、小グリッドごとに行った。土層は5層に大別され、第4層の上層の灰褐色粘土層から、主に中・近世の遺物が出土した。遺物は丸瓦・平瓦が多くを占め、中には三ツ巴文軒丸瓦もある。この他、土師質小皿・瓦質土器・唐津系陶器・明青花などが出土している。

まとめ

年代的にはほぼ限定された時期の瓦・土器・陶器類が多数出土し、石組み遺構が検出されたことで、沖城跡に関連する遺構・遺物が初めて確認された。今後は、出土遺物の時期が一致する西方の田井原条里遺跡と併せて考えていくことで、実体がより明確になると思われる。



沖城跡出土遺物

〔調査担当：本田〕〔文責：小松〕

⑪ 陣の内遺跡

所在地 南高来郡瑞穂町岡名字陣の内

調査原因 土地改良事業

調査期間 平成8年2月26日～4月2日

報告書 平成9年刊行予定

調査主体 瑞穂町教育委員会

調査面積 350m²

処置 調査後工事着工

遺跡番号 85-53

立地

陣の内遺跡は岡地区、夏峰地区の丘陵に挟まれた河岸段丘上に位置する。この河岸段丘は遺跡西部の舟津川によって形成されたものであり、現在の河床面と遺跡の比高差は8mにおよぶ。この舟津川の両端は現在水田として利用されている。標高は15m前後の町内でも有数の水田地帯である。この舟津川を中心とする水田地帯は以前から土器片などが採集されており、付近一帯が遺跡であることが知られていた。



陣の内遺跡位置図 [湯江] (1/25,000)

調査

本遺跡の調査は団体営土地改良総合整備事業に伴う農業基盤整備を受ける地区について調査を実施した。調査の結果、2・3層から13世紀を主体とし、15・16世紀まで下る青磁器片・白磁器片・土師皿片などが出土した。特に土師皿は壺を中心とする遺物が出土遺物全体の半分を占めている。4層からは壺形土器片・高杯脚部片などを中心とする弥生時代後期の土器が出土した。また2層から中世の建物跡と思われる柱穴が検出され、確認できるもので2軒存在していることがわかった。2・3層を中心とした中世の層からは鉄さいが多量に発見され、吹子の羽口が数点出土した。

まとめ

特徴として陣の内遺跡は中世を主体とした遺跡であると考えられる。このことは13世紀代の土師皿が出土することでもわかる。また、輸入陶磁器も出土しており、大陸との関連が窺われ、この地には財力をもった権力者が存在したと思われる。陣の内遺跡は長崎県内で土師器が多量に出土した遺跡であり、今後長崎県内における土師編年を確立し、伝播経路が肥前または肥後の解明を報告書の刊行に待ちたい。

【調査担当：福田】(文責：東)

⑫ 五万長者屋敷遺跡

所在地 南高米郡国見町多比良丁630 ほか

調査原因 重要遺跡範囲確認調査

調査期間 平成7年10月30日～11月28日

報告書 平成9年刊行予定

調査主体 長崎県教育委員会

調査面積 180m²

処置 調査後埋め戻し

遺跡番号 86-26

立地

本遺跡は島原半島の北部、雲仙岳北麓の標高60m前後の緩やかな山腹丘陵に位置する。周辺の地形は北に有明海を望む眺望の開けた丘陵地帯で、海岸線から約3kmの距離を測る。遺跡の周辺「高下名」といい、遺跡の東側に高下道とよばれる古代の街道が通る。

調査

今回の調査は範囲確認を目的とし、遺跡の広がり・遺構の確認を主眼として広範囲に試掘場を設定した。第1試掘場は、約40cmの深さから版築を検出した。そのため第1試掘場の周辺を拡張して版築の広がりを追求した。馬頭観音の境内に設定した第5試掘場から祭祀遺構が検出された。

遺構と遺物

①版築

版築は黒色土を固めており、数点の須恵器と土師器の小片を出土した。もっとも厚い部分で15cmあまりで2～3枚程度に分層できるが、北にいくにつれて薄くなる。土層断面でみるとほぼ水平である。上

部は削平されている。軟弱な火山灰層を締め固め何らかの遺構を構築するためのものと思われる。しかし今回検出した部分では柱穴などの遺構は確認できなかった。

②祭祀遺構

第5試掘坑で検出した祭祀遺構は、長径80cm・短径50cm・深さ30cmの楕円形の浅鉢状のピットで、最上部に土師器の壺を伏せる。覆土はサラサラの淡黄褐色の砂質土であり、なかに黒褐色の粘土塊が含まれている。太宰府条坊跡に類似があり、地鎮祭に関する遺構であると報告されている。

③遺物



五万長者遺跡位置図【多以良】(1/25,000)



遺物出土状況

瓦は表採分を含めて約50点ほど出土した。試掘坑からの集中的な出土ではなく、遺構に伴わない単独の出土がほとんどでしかも散発的であった。文様のある軒平瓦が2点の他は平瓦および丸瓦で、軒丸瓦はなかった。瓦のうち多数を占める平瓦は、凸面には布目痕が、また凹面には斜格子の叩き文が施される。斜格子の幅などから判断すると、数種類の調整具の使用が推測される。また木造跡から出土する瓦は灰黒色を呈し、おおむね焼成は良好である。

④土器および石器

土器には、縄文時代前期の土器から近世陶磁器にいたるものが出土している。縄文時代前期の尾田式土器の口縁部が第1試掘坑の版築の下層から出土した。縄文時代の剥片は各試掘坑から攪乱状態で出土しており、地点によっては包含層が存在するものと思われる。

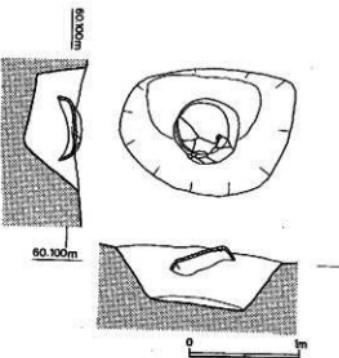
木遺跡の中心である瓦葺き建物遺構の時期は、「老司I式」系瓦の編年的位置から8世紀中ごろと考えられている。出土した須恵器の多くが同時期に比定されている。

石器としては、第5試掘坑の第4層から出土した搔器と剥片が注目される。いずれも旧石器時代の所産であり、第4層は旧石器時代の包含層と考えられる。

まとめ

何らかの建物遺構と関連のあると思われる版築を確認したが、調査区の関係からその拡がりなどは確認できなかった。また、瓦葺きの建物跡遺構の検出はできなかつたが「寺院跡」はおそらく高下道と狹田神社の間の標高60mラインで囲まれる部分に想定することができよう。その傍証として、過去の瓦の集中的な出土、礎石らしきものの存在などがあげられよう。

また高下道の東側からも遺物が採集され、遺構が確認された。このことから遺跡が相当広範囲にわたることが推測されるにいたつた。



祭祀遺構検出状況

〔調査担当：川道・甲斐田〕（文責：川道）

⑬ ひとの 一野遺跡

所在地 南高米郡有明町大三東字一野

調査原因 国庫補助事業

調査期間 平成8年2月13日～3月9日

報告書 判行予定なし

調査主体 有明町教育委員会

調査面積 140m²

処置 調査後埋め戻し

遺跡番号 92-41

立地

遺跡は、火山性扇状地の先端部にあたる低平な洪積段丘に所在する。段丘の両側は金洗川と江川に開析されている。標高は14～20mあまりで、東側は比高10m程度の段丘崖となる。

調査

調査は、雲仙普賢岳災害の復旧に伴う開発が予想される有明町内の遺跡についての国庫補助事業として実施された。国道沿いに位置する本遺跡の周辺は虫食い状に開発が進行しておりそれへの対応が急がれるところである。

調査は国道を挟んで山側には2×2mの調査坑を20m間隔で2列設定した。ほとんどの調査坑はゴボウ栽培に伴うトレッチャによって包含層が破壊されていた。海側の丘陵部は、かって住居跡・古墳・石棺・斐棺などの遺構が調査や工事によって明らかになった地区である。そのために面的に調査することとし2×5mのトレッチャを6箇所設定した。

遺構

今回の調査で検出された遺構は、古墳1基と階段状遺構およびピットなどである。古墳は横穴式石室で、蓋石および小口積みした石材の一部はすでに除去されていた。石室は玄室および羨道からなる。玄室は長さ1.4m、幅0.5mの長方形で、西側壁は長さ90cm・幅20cmおよび長さ70cmの板石2枚で構成する。東側側壁も2枚の石で構成されるが、板石ではない。また、この側壁の上端には白色粘土が充填されていた。奥壁は2個の円窓からなる。羨道はゆるやかに先端部が広がる。石室の床面は未発掘である。砂遺構と称された地震による「液状化現象」の痕跡が数か所確認されている。

遺物

縄文時代早期の条痕文円筒土器がまとめて出土した。この種の土器は熊本県南部から鹿児島県北部に分布の中心をもつものである。器形は円筒形の深鉢で、胎土は精選され焼成は良好である。器壁は1cm前後で厚手である。その他には弥生土器・土師器・須恵器・黒曜石片などがある。



一野遺跡位置図【島原】(1/25,000)

【調査担当：川道】(文責：川道)

⑯ 中木場遺跡（水無川4号遊砂地造成工事に伴う工事立会調査）

所在地 島原市天神元町・白谷町

調査主体 長崎県教育委員会

調査原因 遊砂地造成

調査面積 10,000m²

調査期間 平成7年7月17日～7月28日

位置 調査後工事

報告書 平成8年刊行

遺跡番号 96-81

立地

中木場遺跡は、島原市の南端に所在し、島原市と深江町の境界を流れる水無川の北側に位置し、北には眉山がそびえ、好天の日には普賢岳が間近に望める場所にある。遺跡の周囲は東下がりの緩やかな傾斜を持つ火山性山麓扇状地であり、遺跡の本体はその北端部分に立地し、海岸線からの距離は約2km、標高は90m～140mを測る。

調査

調査区は水無川の北側部分とし、工事区の設定名称であるその1を調査区の1区、その2を調査区の2区とし、2区の南をA、北をBとした。ここは、平成5年の調査で遺物が採集できた地域の水無川上流部分にあたる。各区とも土石流が2～3mほど堆積しており、調査期日も限られていることから工事に並行して重機で包含層まで掘り下げ、遺物を取り上げる方法を取った。遺物はおもに、1区から縄文時代晩期の土器が、2区からは弥生時代～古墳時代の土器が出土した。また2区からは、石に閉まれた弥生時代の小壺と壺が重なった状態で確認された。

まとめ

今回の調査は、造成工事と平行して、かつ避難用車両を待機させ、毎週月曜日には避難訓練を行うという厳しい環境のもとで実施された。調査の結果、出土した遺物から判断して、本遺跡は縄文時代晩期から中世に至る複合遺跡であるということ、黒川式（礫石原式）の縄文土器が出土していることから、島原半島の北東部に多数所在する縄文時晩期の遺跡群と同じように、礫石原遺跡の影響下にあったことなどが明らかになった。



中木場遺跡位置図〔雲仙〕(1/25,000)



遺物出土状況

⑯ 中木場遺跡（水無1号ダム建設工事に伴う緊急発掘調査）

所在地 島原市天神元町・白谷町

調査主体 長崎県教育委員会

調査原因 砂防ダム建設

調査面積 1,700m²

調査期間 平成7年10月11日～10月20日

位置 調査後工事

報告書 平成8年刊行

遺跡番号 96-81

立地

中木場遺跡は、島原市の南端で水無川の北側に所在する。周囲は東下がりの緩やかな傾斜の火山性山麓層状地である。遺跡の本体は、その北端部分に立地し、標高は90～140mを測る。

この地は畑地や宅地、墓地として利用されていて、普賢岳の噴火に伴い、土石流に覆われることとなった。

調査

調査は、水無1号ダム建設予定地内を対象に実施した。この地域は、平成5年1月と平成7年7月に実施された調査の際、遺物が出土した地域の水無川上流部分にある。調査区は、基本的に10m×50mのトレンチを設定し、西から第1トレンチ～第6トレンチとした。調査の結果、1トレンチと第2トレンチから遺物が出土したが、特に、北側部分には縄文時代晚期の遺物の集中出土区域がみられた。

まとめ

中木場遺跡については、平成5年から平成7年にかけて3回の調査が実施されたが、これらの調査を総括していえることは、広い地域において縄文時代晚期から中世に至る遺物が出土しており、長い時代に渡って人類が生活した痕跡があるということである。また、標高が高い調査地点ほど縄文時代の遺物が多く「遺跡立地の趨勢が時代を経るごとに低地へ向かう」島原半島の傾向が中木場遺跡内でもあてはまるといえよう。また一次生産用具である狩猟具の出土が少なく、例えば石鎚は、平成5年の調査で2点、平成7年7月の調査では0、今回の調査で1点である。短絡的にはいえないが、モミの痕跡の付いた縄文時代晚期の土器の出土した山ノ寺梶木遺跡が本遺跡から西南西4kmの位置にあることを思えば、本遺跡内での農耕の可能性も考えることができる。



中木場遺跡位置図〔雲仙〕(1/25,000)



第1トレンチ土層断面（西壁）

〔調査担当：藤田・町田・甲斐田〕（文責：甲斐田）

⑯ 稗田原遺跡

所在地 島原市稗田町

調査原因 道路改良工事

調査期間 平成7年10月16日～11月2日

報告書 平成9年刊行予定

調査主体 長崎県教育委員会

調査面積 230m²

位置 調査後工事着工

遺跡番号 92-74

立地

遺跡は島原市の北東部、普賢岳を起源とする火山灰の供給によってつくり出された扇状地上にある。標高25mを測り、北側に西川と呼ばれる小河川が流れている。

調査

調査は平成4～5年度に概に行われており、7年度分はこの中間部に位置する。グリッドは以前調査したものから設定した。土層はVII層まで確認されており、かなり複雑な様相を呈している。I層～IV層までは普賢岳を起源とする火山灰の影響を受けたものと思われ、V層・VI層はローム質を呈する。I・II層からは須恵器・土師器を主体に出土し弥生土器も出土している。遺構としては、溝状遺構などが検出された。溝状遺構にはガチガチの1～2cmの火山礫が充填しており、遺構内から須恵器が出土している。II層下面からIII層上位では縄文晩期の遺物が出土している。III層とIV層は、火山性の灰白色砂層で小礫を含む層である。V層は明黄褐色粘質土層で、よく締まっている。今回遺物の出土がなかったが、平成3年に調査された畠中遺跡では、この層位から縄文早期（円筒形条痕土器）が出土しているため、この時期に比定されるものであろう。これは百花台遺跡のII層に相当するもので、アカホヤ火山灰を取り込んでいる可能性が考えられる。VI層はV層よりもよく締まっており、やや黒みを帯びて火山性の微小礫を含む。VII層は5mm大の白色の火山性小礫を多量に含む層である。これらの層位の観察から、I層～III層に古代と縄文晩期の遺物が見られるが、この間は火山灰の影響が激しくその合間に抜ったように生活をしたものと思われる。IV層は、全て火山礫で覆われ、その層厚からするとかなりのアクシデントが発生した時期であろう。V層が早期から前期の時期とするとIV層を中期から後期の時期のものと推定しておきたい。普賢岳の噴火によって形成されたとする眉山が軽視されたのがほぼ四千年前とされていることと、期を同じくする。また島原市における縄文中期～後期の遺跡がこの地域に少ないと頷けるものと思われる。



稗田原遺跡位置図 [島原] (1/25,000)

【調査担当：福田・松尾】(文責：福田)

⑯ 沖田遺跡

所在地 島原市前浜町沖田

調査原因 中尾川中小河川改修事業

調査期間 平成7年5月22日～6月21日

報告書 刊行予定なし

調査主体 長崎県教育委員会

調査面積 171m²

位置 調査後工事

遺跡番号 92-77

立地

遺跡は長崎県の南東部を占める、島原半島の東海岸に位置している。中尾川の下流域の標高4～5mの平地で、水田や畑として利用されている。雲仙普賢岳の溶岩ドームが、たびたび崩落して中尾川の上流に堆積し、平成5年4月末からの降雨以来、川を流れ下った土砂によって河口付近が覆われた。このため中尾川の拡幅とそれに伴う大型の堤防設置が計画され、工事に先立って範囲確認調査を実施した。



沖田遺跡位置図【島原】(1/25,000)

調査

調査は、基本的には30mごとの各交点に一箇所の剖で、3m×3mの試掘場を設定して実施した。それぞれの試掘場は、南から北にA・B・C・D列とし、海岸側から上流に向けて1・2・3・・・と数字を付けた。また、島原鉄道の高架工事に伴う仮設線路の部分は、北側から島1・島2・島3・・・として島16までの番号を付けた。平成7年度の範囲確認調査は、以下の試掘場で実施した。A列の2・3・4・5、B列の4・5・9、C列の4・5・6・7・8・9、D列の4、島原鉄道分の1・2・8・11・12の合計19箇所、171m²である。

土層の状況は、この地域が何度も洪水、あるいは土石流が流れた痕跡を示している。20cm前後の耕作土の下に、10cmから15cmほどの黄褐色の粘質土があり、その下が洪水または土石流の跡とみられる砂礫層となっている。砂礫層の下に黒褐色の粘質土があり、かつての耕作土であつたものと思われる。

今回の調査では、遺構や遺物は確認されなかつた。



沖田遺跡調査地域

【調査担当：藤田】（文責：藤田）

⑯ 中南遺跡

所在地 島原市中安徳町

調査原因 一般国道島原・深江道路建設

調査期間 平成7年12月7日～12月18日

報告書 刊行予定なし

調査主体 長崎県教育委員会

調査面積 81m²

位置 調査後工事

遺跡番号 96-84

立地

遺跡は長崎県の南東部を占める、島原半島の東海岸に位置している。水無川の下流域の標高4～5mの平地で、水田や畑として利用されている。雲仙普賢岳の溶岩ドームが、たびたび崩落して水無川の上流に堆積し、平成5年4月末からの降雨以来、流れ下った土砂によって谷も埋まり、多くの人家や道路も被害を受けた。このため、現在の国道より海側に高架式の一般国道島原・深江道路の建設が決まり、工事に先立って範囲確認調査を実施したものである。



中南遺跡位置図〔雲仙〕(1/25,000)

調査

調査では、国道建設予定地内の調査対象地域に道路と同方向に海側をA列、山側をB列の二列に分け、それぞれ20mごとの交点に試掘場を設定した。また南から1・2・3・・・の順に17列までの番号を付けた。このうち9列までは平成5年度に範囲確認調査を終了している。試掘場の大きさは3m×3mの大きさで、A・B列の13～16列までとB-17試掘場の、計9箇所の範囲確認調査を行った。

土層は割合と単純で、耕作土は約20cmでその下に黄褐色粘質土があり、その下は砂質土で小さな礫を含む。その下部にも旧耕作土と思われる粘質の土層があるが、下部は過去の土石流のものとみられる砂礫層が統いている。近辺のボーリング調査の結果では、この砂礫層の層は現地表下20mから30mまで統いているとのことであった。



中南遺跡調査地域

〔調査担当：藤田〕(文責：藤田)

にしおにづかせっかんぐん
(19) 西鬼塚石棺群

所在地 南高米郡有家町蒲河名

調査主体 有家町教育委員会

調査原因 農業関連

調査面積 151m²

調査期間 平成7年6月26日～7月14日

処置 移築復元

報告書 平成9年刊行予定

遺跡番号 96-32

立地

本遺跡がある有家町は、島原半島の中心にある雲仙岳のほぼ南麓に位置し、火山灰等によって形成された扇状地上に立地している。遺跡は標高60～66mの山麓中腹に位置する。海にも比較的近く、遺跡の西側を蒲河川が開析谷をつくっている。

調査

平成6年10月25日～11月2日の2次調査の後現地で保存・整備する方向で話が進んでいたが町立総合運動公園内に移築復元されることに変更されたため、平成7年6月26日～7月14日に移築するに当たって、3次調査として、2次調査の調査範囲の周りの補完調査と移築作業を行った。

調査の結果、2次調査時の支石墓・石棺墓以外の墳墓は確認できなかったが、支石墓・石棺墓の南から柱穴を3個検出し、その中の一つの柱穴から十字形石器が出土した。この柱穴と支石墓等との関係は、はっきりしない。この柱穴のまわりから縄文時代後期の土器や石鎌が出土しているところから支石墓等がつくられる前から生活をしていたことも考えられる。

まとめ

今次調査の成果としては、墳墓以外の生活址の痕跡を確認したことであろう。時期的には支石墓が築かれる前からのものと考えられる。

現在、これらの支石墓・石棺墓は蒲河の浜の町立総合運動公園に移築復元されている。立派な石製の案内板等も設置されているので、近くまでお越しの際は是非一見のほどを。

[調査担当:村川] (文責:村川)



西鬼塚石棺群位置図〔雲仙〕(1/25,000)

㉚ ひろだいら 広平遺跡

所在地 西彼杵郡大瀬戸町多以良外郷広平

調査原因 農道拡幅工事

調査期間 平成8年1月16日～1月26日

報告書 平成9年刊行予定

調査主体 長崎県教育委員会

調査面積 70m²

処置 調査後工事着工

遺跡番号 75-9

立地

多以良地区は大瀬戸町の北部に位置し、北は西海町に接し、南は板の浦に通じている。広平遺跡はヒウ山や高帆山をもつ山塊の西側斜面に立地し、東に多以良川、および多以良盆地を望み、西に五島灘を一望する標高約120～130mのところに位置する。

調査

調査はグリッド法で行った。調査区は地形の傾斜と土地の形状にあわせて設定し、東から1区・2区とした。1区には土層観察用の畦を残した。

土層は基本的に5層からなり、第1・2層は表土ならびに腐植土である。第3層は灰褐色土層である。4層は黄褐色土層で、第5層は砂岩ないしは泥岩の基盤層である。遺物包含層は第4層で、色調や角礫の大きさからa、bの2層に分けた。両者は土質的には相違はないが、色調がb層が黄色みが強いことと、含まれる角礫がb層のほうが大きいことが異なっている。遺構の出土はなかった。

出土遺物のほとんどは黒曜石かサヌカイトのチップと剥片であった。また、16点の石鏃の出土があった。その他、石斧、磨石、石核などが出でたが土器の出土はなかった。このため、時期の決定にやや困難を伴うが、石鏃の形態がほとんど鍾形鏃であること、剥片剥離の技術に長崎市柿泊遺跡出土の遺物との共通性がみられることなどより、縄文時代早期を中心とする時期と考えられる。

まとめ

広平遺跡からは400点以上の大量のチップならびに剥片を出土した。遺跡の性格としては狩場などが考えられる。付近には岩陰や洞窟なども存在し、このようなところを居住地としたことも考えられる。いずれにせよ西彼杵半島では稀少な縄文早期の遺跡であることが判明した。

【調査担当：古門・甲斐田】（文責：古門）



広平遺跡位置図 [板浦] (1/25,000)



広平遺跡遠景

㉑ いきりき 伊木力遺跡

所在地 西彼杵郡多良見町船津郷

調査原因 道路改良工事

調査期間 平成7年7月7日～8月31日

報告書 平成9年刊行予定

調査主体 長崎県教育委員会

調査面積 200m²

処置 調査後工事

遺跡番号 83-8

(遺跡地図には船津遺跡として登録)

立地

遺跡は大村湾の南奥部に位置する。大村湾の南岸及び西岸は、背後に険しい山を控え、そのまま湾内に没し、海岸線は複雑な様相を呈する。伊木力遺跡も伊木力川によって形成された沖積平野と背後の急峻な丘陵との接点に位置する。

調査

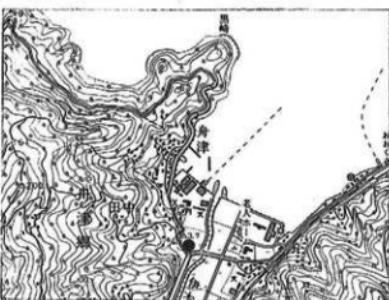
調査は県道の拡幅工事に伴い、平成5年から試掘調査が実施されていた。平成7年の調査は平成6年の調査時に出土したドングリ貯蔵穴が南に延びることが予想されたため、実施したもので、平成6年調査時のグリッドの南側に10m×20mで設定した。

土層

基本的には8層確認された。遺物は2層に中世、3層に繩文後期初頭、5層で前期（曾畠式土器）6層を主体として前期（藤B式土器）が確認された。これらの包含層は、土石流によって形成されたもので、実際の生活の場は調査区域よりやや高いところにあったものと思われ、生活域の端に今回発見されたドングリの貯蔵穴が形成されたものであろう。

まとめ

調査の結果ドングリ貯蔵穴があらたに9基確認され、その内3基が繩文後期初頭、6基が繩文前期のものであった。前期の貯蔵穴については前回のものも含め22基が確認されたことにな



伊木力遺跡位置図〔大村〕(1/25,000)

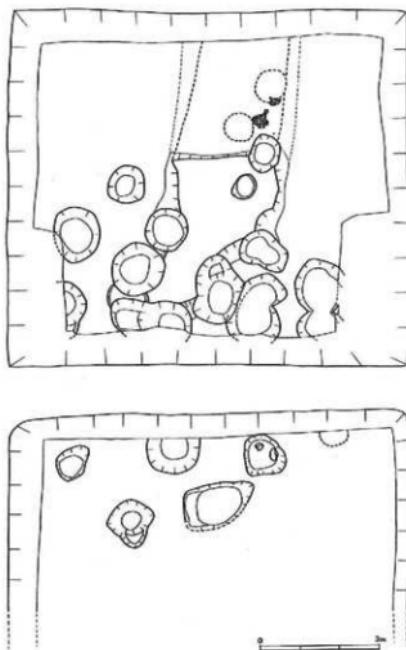


調査区周辺図 (1/25,000)

り、この時期のものとしては最大規模のものである。貯蔵穴内にはドングリ（イチイガシ）が充填しており、多くは殻のみが残された状態であった。遺物は轟B式土器・曾畠式土器・南福寺式土器・坂の下式土器が主体であり、この他にイノシシの下顎骨等も出土しており、植物性蛋白質・動物性蛋白質が安定して供給される環境があったことを示唆している。石器は5層、6層を通じて石錘の量が多いことが特徴で、特に超大型石錘の出土が目を引く。この他5層の曾畠式土器に伴う石器としては蛇紋岩製の大形石斧が、6層では小型のノミ状の石斧が特徴的で石斧での石材の変化とともに、形態の変化には注目すべきであろう。

3・5・6層は先述したように土石流の堆積物である。このことはそれぞれの層が比較的安定した時期のものを包含していること思われるが、出土の遺物が土石流内の出土だけに、それぞれの時期の断片であることを考慮しなければならないであろう。

【調査担当：福田・高原】（文責：福田）



ドングリ貯蔵穴実測図

㉒ 木場崎A遺跡

所在地 西彼杵郡時津町日並郷木場崎字高尾

調査原因 老人ホーム施設建設

調査期間 平成7年12月18日～12月22日

報告書 刊行予定なし

調査主体 時津町教育委員会

調査面積 32m²

位置 調査後埋め戻し

遺跡番号 82-19

立地

木場崎A遺跡は、時津町日並郷の北部に位置する。木場山東麓の標高25～30mの緩やかな丘陵部に所在し、現在はみかんやぶどうを中心とした果樹が栽培されている。東方と北方に大村湾を望み、海岸線からの距離は約100mである。この地域では黒曜石剥片等が表面採集されることがから、古くから遺跡であると思われていたが、昭和48年の分布調査でその存在が確認された。また、北西約1.5kmの海上には、古墳群で有名な前島がある。

調査

依頼のあった地権者の土地のうち、遺跡の残りの比較的良さそうなぶどう畠とその西のみかん畠を調査区とし、2m×2mの試掘坑を8箇所設定した。層序はどこもほぼ同じで約20cmの表土層の下に約80cmの玄武岩の風化土である赤色粘質土があり下層の玄武岩の岩盤となっている。遺物は表土層から黒曜石剥片が数点出土したが、上部からの流れ込みだと思われる。

まとめ

今回の調査は、傾斜が緩やかで遺跡の残りがいいと思われる部分を中心に行ったが、遺物包含層、遺構等は確認できなかった。この地域は約20cmの表土層の下は基盤である玄武岩の風化土層であることから、土砂の流出が激しく堆積土層が残らず包含層等も残存していないと思われる。



木場崎A遺跡位置図【長浦】(1/25,000)



遺跡遠景

【調査担当：甲斐田・桑原・松園・川口】(文責：甲斐田)

さくらまち
② 桜町遺跡

所在地 長崎市桜町4-14

調査原因 警察官舎新築工事

調査期間 平成7年7月24日～9月14日

報告書 未刊行

調査主体 長崎県教育委員会

調査面積 225m²

処置 本調査

遺跡番号 新規発見

立地

遺跡は、金比羅山（366m）から長崎港に延びる標高約13mの丘陵部に位置し、周辺は商工会・農協・生命保険会社等のビルディングに囲まれている。

調査

平成7年6月20日～6月27日に確認調査を実施しその結果ふまえ本調査を実施した。表土部約40cm程を機械により掘削し、その後は人力により発掘調査を行った。

基本層位は、I層が現建物面、II層が焼土

（第2次世界大戦における火災の焼上）、III層が黄灰色土、IV層が黄色粘質の地山となっていた。

I層～II層は、近世～現代の遺物が出土し、III層に江戸時代前期～後期の遺物を包含している。

遺構は、II層に幅1m長さ11mの石敷造構、III層に集石造構・胞衣壺・泉水池・暗渠、IV層に地下室・井戸戸・48基の土坑を検出した。

遺物は、III層から19世紀前半～中頃の陶磁器類が主体をしめ、その他にガラス製かんざし、寛永通宝などが出土している。IV層直上には江戸時代中期のコンニャク印判文様の陶磁器類が主体で出土した。IV層遺構内で出土する遺物は江戸時代前期、時期が寛文3（1663）年以前に限定される伊万里焼・中国明末・清初頭の陶磁器類で占められている。

まとめ

遺跡の時期は、17世紀前半から始まり19世紀前半まで継続していることが確認できた。

また、正徳年間（1711～1715）の古地図に記された豊後町の鶴井安之助宅にあたる文献がもっとも古く確実な資料と考えられたが、17世紀前半と考えられる陶磁器類が遺構に伴って出土しており、このころにおける長崎の屋敷形態の一端が調査によって明らかとなったといえる。

【調査担当：町田・松尾・塙塙】（文責：塙塙）



桜町遺跡位置図 [長崎東南部] (1/25,000)

III 平成7年度 長崎県埋蔵文化財発掘届・発見届一覧

- 一覧表の通し番号は、文書の届出順を基本とする。
- 時代については、Ⅰ・石器時代→Ⅱ・縄文時代→Ⅲ・弥生時代→Ⅳ・古墳時代→Ⅴ・古とし、2時代あるいは3時代にわたって存在する場合は、縄・弥や、縄・弥・古などとし、複数の時代にまたがる場合は、縄～古などとする。
- 原因については、a→学術調査、b→遺跡整備、c→自然崩壊、d→開発事業に伴う調査を示す。
- 結果については、A→発掘調査、B→範囲確認調査、C→工事立会、D→慎重工事、E→発見届、F→厳重注意を示す。

番号	遺跡名	時代	所在地	原因	結果	57条2	57条3	575・条6	57条	98条2
1	大門寺跡	中世	平戸市鏡川281-1他		F	○				
2	森岳城跡	近世	島原市城内1丁目1183-1	d	B		○			○
3	柿泊遺跡	旧・縄	長崎市柿泊	d	A		○			○
4	椿遺跡	縄弥古	壱岐郡石田町池田東触字椿222他	d	A					○
5	椿遺跡	縄弥古	壱岐郡石田町池田東触字椿222他	d	A					○
6	百合畠古墳群 1・16・20	古墳	壱岐郡勝本町百合畠触字小場ノ辻519-1他	d	A		○			
7	中ノ瀬遺跡	弥・中	松浦市今福町東免字馬場ノ尾243-1他	d	B					○
8	馬込遺跡	縄・弥	平戸市糸差町376他	d	A					○
9	黒丸遺跡	縄～近	大村市黒丸町290-291-1-289-292-1	d	A	○				○
10	佃遺跡	弥生	南高来郡国見町神代東里	d	A					○
11	中尾遺跡	弥・古	壱岐郡石田町東触字中尾926-1他	d	A	○				
12	久保園遺跡	縄文	松浦市志佐町里免字久保園226-3	d	A	○				○
13	久保園遺跡	縄文	松浦市志佐町里免字久保園226-4	d	A	○				○
14	久保園遺跡	縄文	松浦市志佐町里免字久保園226-2	d	A	○				○
15	原の辻遺跡	弥・中	壱岐郡芦辺町深江平触字高原44他	d	A		○			○
16	原の辻遺跡	弥・中	壱岐郡芦辺町深江平触字高原44他	d	A		○			○
17	安国寺A遺跡	弥・中	壱岐郡芦辺町深江平触字高原44他		A		○			
18	安国寺A遺跡	弥・中	壱岐郡芦辺町深江平触字高原44他	d	A		○			○
19	安国寺B遺跡	弥・中	壱岐郡芦辺町深江平触字高原44他	d	A		○			○
20	安国寺B遺跡	弥・中	壱岐郡芦辺町深江平触字高原44他		A		○			○

番号	遺跡名	時代	所 在 地	原因	結果	57条2	57条3	575・条6	57条	98条2
21	木場崎遺跡	绳~弥	西彼杵郡時津町日並郷木場崎字高尾	d	B					○
22	中南遺跡	绳~弥	島原市浜の町156他	d	A		○		○	
23	黒丸遺跡	绳~弥	大村市沖田町77-2,74-2	d	A					○
24	大浜遺跡	弥生	平戸市志々伎町大浜288-6	d	C	○				
25	冲遺跡	中世	諫早市仲沖町127-1他	d	A					○
26	冲遺跡	中世	諫早市仲沖町	d	A	○				○
27	頭ヶ島白浜遺跡	绳文	南松浦郡有川町友住郷字白浜649-1他	d	A		○			○
28	沖田遺跡	弥・古	島原市前浜町沖田	d	A		○			○
29	原の辻遺跡	旧・弥	壱岐郡石田町池田仲触字鏡ノ池507	c	○					
30	原の辻遺跡	旧・弥	壱岐郡石田町池田仲触字鏡ノ池529-4	c	○					
31	稗田原遺跡	绳弥近	島原市稗田町甲281番地先~甲447番地先	d	A		○			○
32	池ノ浦遺跡	古墳	下県郡美津島町大字久須保字池ノ浦711-5	E			○			
33	上大垣遺跡	旧~弥	平戸市岩の上町字東中山224-1	c	○					
34	弥勒寺跡	中世	大村市弥勒寺町150-1,151	d	A	○				○
35	源内谷遺跡	绳文	諫早市小川町566,567-1	d	A	○				○
36	坂口・横道遺跡	绳文	大村市坂口町374-5外ノ筆	d	A	○				○
37	黒丸遺跡	绳~近	大村市宮小路3丁目1392-3	d	A	○				○
38	宮下貝塚	绳文	南松浦郡富江町宮下	a			○			○
39	小野条里遺跡	奈良	諫早市宗方町116-1外	d	A		○			○
40	黒丸遺跡	绳~中	大村市宮小路3丁目1392-1	d	A	○				○
41	小曾根帰山窯跡	近代	長崎市小曾根町1-32	d	E			○		○
42	西鬼塚石棺群	古墳	南高米郡冨家町蒲河1819	a	○					
43	高尾窯跡	近代	東彼杵郡佐見町皿山郷680	a	A					○
44	稗田原遺跡	绳弥中	島原市稗田町	a	A		○			○
45	鷹島海底遺跡	中世	北松浦郡鷹島町神崎免字迎1039先公有水面	d	A		○			○
46	稗田原遺跡	绳弥中	島原市稗田町193	a	○					
47	道田遺跡	弥生	島原市本町	a			○			
48	伊木力遺跡	绳文	西彼杵郡多良見町船津郷字末松手1100-1	d	A		○			○

番号	遺跡名	時代	所 在 地	原因	結果	57 条2	57 条3	57.5 条6	57 条	98 条2
49	大浜遺跡	弥生	平戸市志々伎町字大浜311-1		C	○				
50	田川遺跡	旧・繩	松浦市御厨町田代免字島田286他	d	A		○			○
51	原の辻遺跡	弥生	壱岐郡芦辺町深江鶴亀触1274-1		D	○				
52	竹松遺跡	绳~古	大村市竹松町904-1	d	A					○
53	古賀島4遺跡	繩文	大村市古賀島町270-1,270-7	d	A	○				○
54	椿遺跡	古墳	壱岐郡石田町津ノ宮43外		A		○			
55	柏遺跡	古墳	壱岐郡石田町津ノ宮43外	d	A		○			○
56	黒丸遺跡	绳~近	大村市沖田町713,714	d	A	○				○
57	池ノ浦遺跡	弥~古	下県郡美津島町大字久須保字池ノ浦711-5	d	A		○			○
58	国崎遺跡	繩~中	南高来郡南串山町内1		C		○			
59	椿遺跡	古墳	壱岐郡石田町池田東触字椿240-1	a	B					○
60	宮の浦A遺跡	繩文	平戸市野子町892		C	○				
欠番										
62	姫神社遺跡	繩文	松浦市星鹿町北久保免字宮崎578-1	d	C	○				
63	瀬古窯跡	近世	長崎市東町2484-1外	d	A	○				○
64	姫神社遺跡	繩文	松浦市星鹿町北久保免字宮崎523		A	○				○
65	笛吹遺跡	弥~古	北松浦郡小値賀町笛吹郷河川久保1977-1		A		○			○
66	潮の溝遺跡	弥生	平戸市大久保町220-431		C		○			○
67	頭ヶ島白浜遺跡	繩~近	南松浦郡有川町友住郷649-1外		B		○			○
68	中木場遺跡	弥~中	島原市下宮町甲1881-1-2E-202		C		○			○
69	桜町遺跡	近世	長崎市桜町4番地14~16	d	A		○	○	○	○
70	宮原遺跡	弥生	壱岐郡郷ノ浦町大原触字北橋町32-1外		B		○			○
71	原の辻遺跡	弥生	壱岐郡芦辺町深江鶴亀触字高原6D-1外		A		○			○
72	人清水池遺跡	古~奈	壱岐郡勝本町布氣触字原野田森尻		B		○			○
73	水口山遺跡	繩文	南高来郡国見町上黒八斗木		A		○			○
74	坂口内高野遺跡	繩文	大村市坂口町436~480番地		C		○			
75	興触遺跡	旧~古	壱岐郡湯岳興触字田口345外		B					○
76	上大垣遺跡	旧~弥	平戸市岩の上町字東中山223-8		C	○				

番号	遺跡名	時代	所在地	原因	結果	57条2	57条3	575・条6	57条	98条2
77	石山遺跡	近世	福江市福江町7番地	d	A					○
78	富の原遺跡	繩・弥	大村市富の原2丁目	d	A	○				○
79	竹松遺跡	繩～中	大村市竹松町655-5	d	A	○				○
80	宝生寺跡	中世	大村市三城町1024-3他	d	A	○				○
81	津吉遺跡	旧～弥中	半戸市津吉町字大坪791-16	d	C	○				
82	中木場遺跡	弥～中	島原市白谷町深江町、大野木場名		C	○				
83	鏡山遺跡	旧	大村市東野岳町1684他	d	B	○				○
84	富の原遺跡	繩・弥	大村市富の原2丁目		B	○				○
85	大浜遺跡	弥生	平戸市志々伎町291-1他		A				○	○
86	原城遺跡	中・近	南高来郡南有馬町	b	A					○
87	興触遺跡	旧奈平	老岐郡芦辺町湯岳興触字田口447-1他	d	B					○
88	鐵ノ下A遺跡	繩・弥	大村市池田2丁目625-9	d	A	○				○
89	柴田遺跡	繩古中	大村市三城町983-2		C	○				
90	日野江城跡	中世	南高来郡北有馬町谷川名地内	b	A					○
91	茶園遺跡	旧・繩	南松浦郡岐宿町岐宿郷字茶園字白耕田	d	A	○				○
92	原の辻遺跡	旧繩～中	老岐郡芦辺町深江鶴龜触字原1254外	b	B					○
93	上大垣遺跡	旧～弥	平戸市岩の上町220		C	○				
94	大垣遺跡	中世	南高来郡有家町慈恩寺元ノ松648-3他		B	○				○
95	黒丸遺跡	繩～近	大村市沖田町621-1外	d	A	○				○
96	興善町遺跡	近世	長崎市興善町4-6	d	A	○				○
97	鹿尾遺跡	繩文	長崎市三和町		C	○				
98	上原遺跡	繩文	佐世保市上原町		A	○				
99	占里C遺跡	繩文	佐世保市針尾東町古里2174-1		D		○			
100	長崎鼻遺跡	繩文	北松浦郡宇久町平郷字長崎鼻		F	○				
101	原の辻遺跡	旧・弥	老岐郡石田町石田西触246-3		F	○				
102	東田原遺跡	弥生	南高来郡有家町原尾1354	E					○	
103	東木場遺跡	弥生	南高来郡有家町原尾名東木場	B					○	
104	下木場遺跡	繩・弥	南高来郡有家町原尾名下木場		B				○	

番号	遺跡名	時代	所在地	原因	結果	57条2	57条3	575・条6	57条	98条2
105	野中遺跡	繩・弥	南高来郡有家町原尾名野中	E			O			
106	礫石原遺跡	縄文	島原市礫石原町甲201-168	A						O
107	黒丸遺跡	縄～近	大村市神田町京面農道以北	d	B					O
108	橈遺跡	弥・古	福江市上大津町五社下人津町橈	d	B					O
109	五社の上遺跡	弥・古	福江市上人津中畠・晦日出	d	B	O				O
110	浜田遺跡	弥～平	壱岐郡石山町南触字浜田	F						
111	興原遺跡	旧弥～中	壱岐郡石田町湯岳興触字大川・興・占川	F						
112	畠中遺跡	弥～中	島原市下宮甲2427-2他	d	A	O				O
113	丸尾遺跡	弥生	壱岐郡勝本町新城西触字丸尾	d	A					O
114	大坪城跡	中世	国見町東里名楠高名	D		O				
115	赤城遺跡	縄文	国見町東甲名	A		O				O
116	牛山ミルメ浦遺跡	古～奈	壱岐郡勝本町東触字白浜辻・小串地先	d	A					O
117	寺中B遺跡	弥生	島原市寺中町丙1545	A	O					
118	鷹島海底遺跡	中世	北松浦郡鷹島町字深田807-1から 795-11の公有水面	d	A	O				
119	原の辻遺跡	弥生	壱岐郡石田町石田丙西触字石田高原	D		O				
120	原の辻遺跡	弥生	壱岐郡芦辺町深江栄鶴龟触字高元	D		O				
121	黒丸遺跡	縄・弥	大村市黒丸町95-69-1～69-4	A		O				O
122	勝本町遺跡	近世	長崎県勝本町30	A						O
123	後北遺跡	古墳	壱岐郡石田町簡城東触字後北	E						O
124	原の辻遺跡	旧・弥	壱岐郡芦辺町深江鶴龜触字原1272-1	C	O					
125	芝原遺跡A	縄文	長崎市中里町1701	C	O					
126	平野遺跡	古墳	大村市大川出町1009-1他	d	A	O				O
127	武辺城跡	中世	佐世保市竹辺町142・143	a	A					O
128	沖城跡	中世	諫早市杵神町256他	d	A		O			O
129	原の辻遺跡	旧・弥	壱岐郡石田町池田東触字原の木95-1他	d	A	O				O
130	興原遺跡	旧弥古	壱岐郡石田町湯岳興触字大川・興・古川	A		O				
131	広平遺跡	縄文	西彼杵郡大瀬戸町多以良郷広平1803-2	d	B		O			O
132	中ノ瀬遺跡	縄弥中	松浦市今福町浦免字中ノ瀬45他	A						O

番号	遺跡名	時代	所 在 地	原 因	結 果	57 条 2	57 条 3	57 5 ・ 条 6	57 条	98 条 2
133	山本遺跡	弥・古	北松浦郡宇久町平郷字山本1906-1	C	○				○	
134	大上戸川条里跡	中世	大村市東三城町210	d	B	○				○
135	竹松遺跡	繩文	大村市竹松町845-4他	d	B	○				○
136	杉の尾洞穴遺跡	繩文	佐世保市袖木元町1759-1	a					○	
137	横手遺跡	旧・繩	佐世保市横手町423	a					○	
138	横山遺跡	弥生	長崎市太山尾町2648-2	d	B	○				○
139	福田城跡	中世	長崎市福田本町	d	D		○			
140	豊大畑遺跡	古墳	上県郡上対馬町大字豊字大畑760-1外	d	B					○
141	里田原遺跡	繩・弥	北松浦郡田平町里免932-1他	b	A					○
142	黒丸遺跡	繩～近	大村市黒丸町	d	A		○			○
143	富の原遺跡	弥・中	大村市富の原1丁目1618	d	B	○				○
144	黒丸遺跡	繩～近	大村市沖田町303-2,304-3	d	B	○				○
145	鏡山遺跡	旧石器	大村市野岳町1803		D	○				
146	築町遺跡	近世	長崎市筑町3-4	d	A		○			○
147	五根緒遺跡	繩文	上県郡上対馬町大字五根緒字平山189外		C		○			
148	寿古遺跡	旧～近	大村市寿古町445-2		D	○				
149	寺ノ尾C遺跡	旧～弥	松浦市御樹町横久保免242-1他		A		○			
150	浦小川遺跡	弥生	平戸市度島町1655他		A		○			○
151	平戸和蘭商館跡	近世	平戸市大久保町2483		B					○
152	鏡山遺跡	旧石器	大村市東野岳町1773		D	○				
153	中島遺跡	繩・弥	福江市浜町中島127-1他		A					○
154	原の辻遺跡	弥生	壱岐郡石田町西触字大川602他		B					○
155	金田城跡	奈良	下県郡美津島町大字黒瀬字城山		B					○
156	柏の木遺跡	繩～中	松浦市志佐町柏木免字山浦1726他		D		○			
157	亀山焼窯跡	近世	長崎市伊良林2丁目15		A	○				○
158	藏本遺跡	古墳	東彼杵郡波佐見町后辺田郷1296-2,1297		A			○	○	
159	竹松遺跡	繩～平	大村市竹松町		D	○				
160	唐人屋敷跡	近世	長崎市塙内町33-3他					○	○	

番号	遺跡名	時代	所在地	原因	結果	57条2	57条3	57条5・6	57条	98条2
161	竹松遺跡	縄～平	大村市竹松町864-2他	A	○					○
162	富の原遺跡	弥生	大村市富の原906-1	A	○					○
163	百合畠1号墳	古墳	壱岐郡勝本町百合畠触字小塙ノ辻519-1他	A	○					○
164	百合畠16号墳	古墳	壱岐郡勝本町百合畠触字生池528-1	A	○					○
165	百合畠20号墳	古墳	壱岐郡勝本町百合畠触字生池528-1	C	○					
166	桜町遺跡	近世	長崎市桜町2-22	B			○			○
167	松山遺跡	旧～縄	福江市松山町548他3筆	A	○					○
168	松山遺跡	旧～縄	福江市松山町700-3他6筆	A	○					○
169	黒丸遺跡	縄～近	大村市沖田町22-1他	A	○					○
170	原の辻遺跡	弥生	壱岐郡石田町池田西触字大川1-30-3	C	○					
171	中尾遺跡	弥生	壱岐郡石田町池田東触中尾987-2	D	○					
172	浜卒遺跡	縄文	南松浦郡三井楽町浜卒郷132	C	○					
173	長崎鼻D遺跡	縄文	北松浦郡宇久町平郷字長崎鼻	A	○					○
174	一野遺跡	弥・古	南高来郡有明町大三東甲字野山711-1	B	○					○
175	一野遺跡	弥・古	南高来郡有明町大三東甲字野山758-1	B	○					○
176	一野遺跡	弥・古	南高来郡有明町大三東甲字野山711-2	B	○					○
177	古田蒙古塚遺跡	弥・古	上県郡峰町大字古田字瀬の隣80-1							○
178	今福遺跡	古・中	松浦市今福町仮坂免字五百田1107-1他	E			○			
179	神代上古賀遺跡	中世	南高来郡國見町上古賀名字皮籠石	A		○				○
180	(仮称)馬乗石古墳	古墳	下県郡厳原町人字豆酸字馬乗石2188					○		
181	沖田遺跡	縄～古	島原市前浜町内77-1他	C	○					
182	勝尾嶺城跡	中世	平戸市鏡川町勝尾岳296-1	C	○					
183	伽遺跡	弥・奈中	南高来郡国見町東甲	A						○
184	迎笠下第2遺跡	縄文	平戸市大久保町迎笠下	C	○					
185	一野遺跡	弥～古	南高来郡有明町大三東甲字野田673他	A	○					○
186	修善寺跡	近世	北松浦郡生月町山田免2123-1							○
187	元亨寺遺跡	縄・中	福江市浜町元亨寺	C	○					
188	黒丸遺跡	縄～中	大村市沖田町	B	○					○

長崎県文化財調査報告書 第135集

長崎県埋蔵文化財調査年報IV

平成9年3月31日

発行 長崎県教育委員会

長崎市江戸町2-13

印刷 川口印刷株式会社

長崎市田中町1020-7